SOCIUS No. 8

［ソシアス］ 仁愛女子短期大学　地域活動実践センター

INDEX

はじめに …… 西畑　敏秀　1

公開講座・講習会
生活と環境セミナー
みんなでつくる1枚の写真とメッセージ …… 浅田　政志　2
幼児教育公開講座
おもちゃインストラクター養成講座 ～遊びの専門家になろう～ … 荒木　舞・原　孝子　8
食育推進事業
平成25年度仁愛食育講座 …… 岸松　静代　11
保育者ワークショップ
「かたち」発見 …… 重村　幹夫　13
カラダをひらく コトバをひらく ココロをひらく ～歌う楽しさの原点にあるものは?～ …… 増田　翼　15
保育者のためのパソコン教室 …… 田中　洋一　18
新人保育者スキルアップ講座 …… 幼児教育学科　19
iPad基礎講座・MicrosoftExcel講座 …… 情報メディア教育支援室　20

地域連携
地域連携開放講座 …… 内山　秀樹　22
森田地区将来ビジョンを実践へと ～仁愛女子短期大学と共に～ …… 吉村　公司　25
森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携事業報告 …… 三和　優　26

学生の活動報告
フクイ夢アート2013他 …… 生活環境専攻　29
仁短祭でのALTとの交流 …… 生活情報専攻　32
ファミリーマートとの連携プロジェクト「ファミマものづくりアカデミー」 … 食物栄養専攻　33
じんあいこどものくに …… 幼児教育学科　33

福井市子ども家庭センター
AOSSA子ども家庭センター･子育て支援室･相談室(平成25年度) …… 青井　利哉　35

ボランティア活動報告 …… 37
パソコンボランティアサークル
ボランティアサークル
栄養研究サークル
ユネスコサークル
折り紙研究会
幼児教育学科

平成25年度地域活動実践センター活動報告 …… 42
管理栄養士国家試験対策リカレント講座
講師派遣
学生の社会的活動（ボランティア等）の報告
平成25年度教員免許状更新講習

おわりに …… 三和　優　45

※敬称略

はじめに

サクラサクと女子力

地域活動実践センター 副センター長　西　畑　敏　秀

文字面も美しい『サクラサク』という言葉は、一般的には入試や検定などで合否を知らせる電報の文体のひとつ。自分の大学受験の時に使用したかどうかは定かではないが、最近は電報を打つ機会も少なくなった。しかし今でも携帯メール等での簡単な連絡メッセージとして言葉自体は活きた使い方をされているのではないかと思うし、同名の歌も数多く作られているようだ。

そして 2014 年、新年早々から福井の地元新聞はこの『サクラサク』で連日のように紙面がにぎわっている。シンガーソングライターで小説家でもあるさだまさし氏の福井（美浜町）を舞台にした同名の小説が映画化され、県や美浜町はもちろん、福井県民はたいへん盛り上がっているのだ。

この映画の監督をつとめた田中光敏氏には、2013 年 2 月に当センターの公開講座で公開前の 2014 年お正月映画『利休にたずねよ』を題材に、映画づくりにおけるさまざまなエピソードや人と人との関わりについて講演をしていただいた。当時はまだ映画『サクラサク』の製作に向けて営業活動の最中であり田中監督も、県民のみなさんの熱意でぜひ実現させましょう！と賛同を求めていた。そして 2014 年 4 月に全国ロードショーとなったのだが、実はこの映画ができるまでには、W さんという一人のさだまさしファンである女性の想いと努力が礎になったという背景がある。W さんは小説に登場する美浜町早瀬のお寺を訪ね（なんと本学の卒業生が嫁がれているとのこと）、小説の朗読会を企画し、関係者や協賛企業のコンタクト、ロケ地探し、資金集めと、映画製作に立ちはだかるあらゆる壁をボランティアで汗を流し乗り越え、10 年来の夢をとうとう現実にしてしまった。編集時に立ち会って意見を求められた W さんはただ泣くばかりで、ちっとも役に立たんかったわ！と田中監督が笑顔でやさしく語っていたのがとても心に残った。

公開講座の前日、生活環境専攻の学生が主催した打ち上げパーティにも田中監督と W さんは参加されて、ノンアルコールで大いに盛り上がっていただいた。私利私欲やわがままではなく、本当のやる気と情熱と行動が、人を企業を社会を行政を動かしてしまったという、これこそ映画のような逸話。

さだまさし氏の実経験をもとにしたという、家族の絆に焦点をあてた原作は、W さんの女子力と田中監督の創造力によって全国公開の映画となり、多くの人々に感動の輪を広げるだろう。

そしてわが福井の素晴らしさも。

生活と環境セミナー　公開講座

みんなでつくる１枚の写真とメッセージ

写真家　浅　田　政　志

日時：平成26年2月15日(土)　会場：福井市美術館

こんにちは、浅田と申します。

自己紹介がてら、いつも撮っている写真をみなさんにご紹介したいと思っております。

僕は「浅田家」という自分の家族の写真をずっと10年以上撮っています。三重県の津市、で生まれ育ちましたので、これからおみせする写真は全部三重県内で撮っています。

僕はいま東京に住んでいて、家族は三重県にいるので、撮影をするときはゴールデンウィークやお盆、家族みんなの休みがあうときが多いです。1年に何回も撮れないので、撮影するときはまとめて撮ります。朝から晩まで丸一日かけて4カット撮るときなどは、丸一日家族と一緒に過ごしています。

写真は僕も写っているので、セルフタイマーで撮っています。セルフタイマーはどのカメラにもついている機能です。12秒できれるセルフタイマーを使って、僕が構図を決めて、親父に「そこたってー」とか、「オカンここにたってー」と言いながら、シャッターを押すと、12秒後に切れるので、撮影場所まで走っていって1枚写真を撮り、また戻って。そういう事を、30～40回繰り返します。最初セルフタイマーを使ったのは、本当にシャッターを押す人がいないので、「しょうがない」「セルフタイマーでいいかな」と思っていました。普通写真と言えば、撮る人が、タイミングを図って撮ります。シャッターを切る人は写真を撮られる人に対して権限がありますが、セルフタイマーは、シャッターを押すと、切れる瞬間が既に決まっているので、みんながその場でシャッターが切れる時間を共有できます。だから家族で撮っている時は、そのセルフタイマーの切れるタイミングにむかって、全員で演技をしているので、集中力が増し一体感が出てきます。

©浅田政志

2007年に出版させていただいた、「浅田家」という写真集の表紙になっている写真です。この写真を見せると、「どうやって消防署撮影許可を得たのですか」という質問があります。いつも僕は撮影のときには、自分の作品が入っているブックを持って、撮りたい場所に行って、アポイントなしでいきなりお願いしています。そうすると、九割九分くらいの人たちに、「意味が分からない」と言われます。「こんなん撮ってどうなんの」「これ、撮ったからうちにどんなメリットがあるの。」などと言われて、説得するのが難しいのですが、僕にはひとつ殺し文句があります。「同じ三重県じゃないですか。」とひたすら言うことを途中から覚えていきました。三重県の出身というだけで、少し一体感があって「ま、地元のよしみやで、協力したるか」といろんな方に協力していただいています。

この写真は、土曜日の午前中は火事が少ないという理由で土曜の午前中にお邪魔しました。消防士の服を初めて着せていただいて、撮影しました。まわりには20人くらいの消防士の方が座って見学していました。設備や衣装を借りたからには、退いてくださいとも言えないので、家

族で辱めながら、撮影していました。そうやって撮影していると、消防士の方が、「なんか、もうちょっとこうしたほうがええんちゃう」「いつも、俺やったらこうしとるけど」などと実際働いている人の意見も出てきて、とても参考になりました。

©浅田政志

これが、自分のなかではすごく思い出に残る写真です。さっきも言いましたが、九割九分くらいは最初行くとあまり歓迎されません。ここは有名な鳥羽水族館というところでして、鳥羽水族館に行って、広報の方に「こんな写真撮りたいんですけど」といきなりお願いしたら、珍しく感動してくださいました。最初から興味を持って、承諾していただけたのはここがはじめてでした。「ここでどういう写真が撮りたいの」と言われて、ペンギンと一緒に撮りたいですと言うと、ペンギンはすごく繊細でびっくりしたら、ご飯を食べなくなってしまうという理由で断られました。それに比べセイウチはいつも柵のないところで、パフォーマンスして、お客さんにナデナデしてもらっているのでセイウチは人間と友達になれるということでセイウチと、後日撮影をさせてもらいました。そうしたら鳥羽水族館の飼育員の判断で、1日3回ショーがある中、3回やってしまうと、セイウチが言うこと聞かなくなるだろうと夕方のショーをなくしてもらい撮影しました。撮影は閉館してすぐ始まりました。セイウチのパフォーマンスショーの一番最後にセイウチがキスするシーンがあって、セイウチがキスしているところを撮ろうと思いましたが、うちの父と母がいくらキスの合図をやっても、セイウチは無視して、まわりにいる飼育員の所に寄っていき撮影すらできない状況でした。大人4人であればなんとかなりますが、動物が入るとこんなに難しいのかと痛感しました。このときも周りに20人くらいのスタッフの方がいらして、見ていた飼育員たちが立ち上がり父と母の横に、いつもの飼育員の方が横に立って、いつものようにキスのマークをすると、キスをするので、2匹の注意がそれたときに、飼育員の方は横に走り、そのタイミングの前に僕がシャッターを切って、そこまで走っていくというのを、何度も繰り返しました。キスして、飼育員が横から退いたときに、うまくパシャっとシャッターが切れたのが3回くらいあって、そのときにみなさんが今良かったよーと拍手してくれました。これだけご協力していただいて、現場でも力も貸していただいて、良い写真撮れていなかったらどうしようかと思っていましたが、後日フィルムを現像して見てみるとなんとか1枚良いのができて、このときはすごく安心しました。

うちの父と母がなぜか目を合わせているという。こんな注文してなかったけど、愛を感じる目線ですごくいいなと思いました。

撮影はデジタルカメラではなく、フィルムカメラで撮っています。だからその現場では良い写真が撮れているかはわかりません。だいたいは予測できますが細かいところは出来上がってからしか見ることができないので、後日見るのを楽しみにしています。

うちの母親は看護師です。だから病院の屋上は簡単に借りることができました。友達のおうちの理髪店やケーキ屋を借りて撮ったこともありますし、母校の中学校の理科室を借りたこともあります。

本当に色んな人にご協力いただいていますし、いつも暖かく見守っていただいています。

また並び順も浅田家らしさを生かしてその場で決めます。あまり撮影にお金をかけないというのが、うちの家族のポリシーでして、昔着ていた黒いTシャツを家からかき集めて、うちの兄にペンで描いてもらったこともあります。撮影にいくと、厨房の中や普段入れないところに入れてもらえるので、職場の雰囲気を味わうことができ、家族で社会見学のような雰囲気もあって、いつも楽しんでいます。

またある時は父親が、かまぼこ板で表札をつくってきたとポケットの中から出してきたこともありました。ひとつでもつくったものが入ると、なんかいいなあと感じます。うちの父親も、明日こういうシーンやから、表札があったら面白いかもと思い、わざわざ作ってくれたことが、このときすごく嬉しかったことを覚えています。また、母も小道具を作るときにアイデアをだしてくれています。

©浅田政志

僕の名前は政志っていう字で、「政治家を志す」と書いて、「まさし」です。だからうちの親やおじいちゃんおばあちゃんは、政治家のような立派な人になってほしいという思いがあったと思いますが、まったくそれとは逆方向の道に進んでしまいまして、撮影のときは政治家のように撮りました。このとき家族全員のテンションが上がっていて、すごく盛り上がりました。だからこのときは珍しく家族全員の良い笑顔が撮れました。

セルフタイマーで素人の僕たちが、すごく良い笑顔をしてと言われても難しくて、本当に笑っている顔には勝てません。このとき家族みんなで笑いながら、しかもそのときにちょうどのタイミングでシャッターが切れてくれたので、珍しい一枚です。何回やってもなかなか出てこないですが、こういった写真が撮れて、思い出に残っている一枚です。

意外と浅田家の写真をみて、うちの父親と母親に目が行きがちですが、一番撮影に貢献しているのは、うちの兄です。ふつう3つくらい離れている兄弟って、「お兄ちゃんこれやってよ」と言っても、「イヤや」って言って終わりそうなものですが、うちの兄は、「まあしょうがないな、弟のためやったら、頑張るか」と移動の運転や、撮影のシチュエーションや構図で僕が悩んでいると、いつも協力してくれています。兄の演技は細部にまで込められています。写真というのはこの手一つで違ってきます。力が入っている感じが、我慢している雰囲気を出します。

この前、展覧会をしたときに、作品を見て、おかしいところがあると言われました。酒好きの人からしてみると、ちょっとここは呑ん兵衛ぽくない、酒好きじゃないところがあると。呑み終わったらフタもしないで転がしておくというので瓶を立てた状態はおかしいということと、呑む人は、一緒の銘柄しか飲まないと言われました。来場者からの意見はリアリティがあって、勉強になります。こういった些細なところまでみつけてもらうのも案外楽しいです。

またある時忍者の写真をみた忍者好きの方に「忍者が後ろから撮られたらアカン、後ろから撮られた時点で忍者失格や」と突っ込みが入ることもあります。

©浅田政志

これは、セルフタイマーを切って、家族がいるところにいつも走っていくので、卒業式のシーンですが、いつもの撮影の雰囲気というか、自分がセルフタイマー切って、「いくよ」と言って、みんながこうやって暖かくこうやって待ってくれていて、一緒に写真撮る雰囲気がいつもの感じだなと、僕はこの写真を見ながら、思っております。

デモ行進の撮影前日、明日デモ行進の写真撮るから、看板を、ひとりずつ寝る前書いてほしいとお願いしたら、うちの母親は『大好き　世界の宝　憲法9条』お兄ちゃんは、『ピース』僕も『ピース』と描きました。うちの親父だけ『日曜日撮影反対』と描いていました。そういうデモじゃないでしょって。「なんでこんなことかいたのお父さん。」「本当は日曜日ゆっくりさせてほしいんや」直で言えばいいのにと思いつつ、せっかく描いたのだからと思って撮影しました。ゆっくりしたいそうです。撮影、1日かかりますから、相当大変みたいですね。

©浅田政志

これが、僕が一番最初に撮った写真です。19歳学生のときです。先生から、「たった一枚の写真で、自分を表現しなさい」っていう課題が出ました。たった 1枚の写真で自分を表現するというのは難しいと思って、どう撮ったらいいのかと悩みました。そのとき「たった一枚の」という響きにすごく新鮮な感じを覚えました。写真ってたくさん撮れるし、持てるし、1枚だけという制限を考えずにバシャバシャ撮っている中、本当にふと一生に一枚だけしか写真撮れないという状況になった場合に、自分はどういった写真撮りたいのかな、とか、「あなたは、死ぬ前に一枚だけプリントをみれますよ」と神様に言われたら、どういった写真を自分はみたいのかなという疑問が、このとき湧いてきました。そのときに、じゃあ一生に一枚しか写真撮れないのだったら、家族の写真を撮りたいと思い、家族の撮影が始まりました。このときは、今まで見てもらった「浅田家」とはちょっと違って、自分の家族の思い出話を再現している写真を撮ろうと思いました。家族のたった一枚の写真で、自分の家族を撮りたいと思いました。そして、ふつうに並んで撮っても、つまらないというか、もっとなにか浅田家らしい、自分の家族らしい写真を撮りたいと思いました。思い出の中で、一番思い出深いことや良いシチュエーションを想いかえしました。

それは僕が小学校低学年のときの思い出の話です。僕は夜ご飯を食べて、2階で休んでいたら、1階で父親の呼ぶ声がしました。すごく大きな声で呼んでいて、なにかなあと思って下に降りたら、血まみれの父親が倒れていました。父親は、ロールカーテンを閉めたときに足を切ってしまったみたいです。うちの母親は看護師なので、小さいときから怪我をしたら、母親に報告するのですが、このときはたまたまいなくて、「お母さんどこおんの?」と尋ねたら、「小学校に盆踊りの練習をしに行っている」「盆踊りの練習しにいっとんのな、じゃあ呼びにいってくるわ」と言って家を出ました。自転車で走って、お母さんに「親父が死にそうやではやく帰ってきてー」お母さんも焦りながら、ふたりで自転車こいで帰っている途中、僕が焦りすぎて、はやく父親に知らせたくて、120%くらいの力で自転車をこいでいたら、そのまま顎から落ちてしまって、僕も血まみれになってしまいました。もうオカンが「あんたなにしよんの、すごい怪我しとるやんか、お父さんもすごいことになっとるし。」お兄ちゃんはこのとき全然気付かず2階でテレビ見ていましたが、「ちょっと降りてきてー!」と呼ぶと、お兄ちゃんも焦ったみたいで、「なになに」と言って、階段からこけて、頭打つという、あほみたいな1日で、3人怪我したまま、うちの母親の病院に担ぎ込まれて、同僚の看護師さんから、「浅田さん、なんか事件があったんですか。」と尋ねられ「事件・・・はないです。ただみんながドジなだけで怪我しました。」ってお母さんは辱められていました。

その当時を表した作品です。

こういった家族写真を撮りながら、他にもいろいろと写真を撮っています。今回は家族写真ではなくファッション写真です。今月の末から、水戸芸術館で「拡張するファッション」というグループ展を開催します。その後に、香川県

の丸亀市にある、猪熊弦一郎現代美術館を巡回します。

僕が写真を撮って、洋服はケイスケカンダ、今をときめく、神田恵介。僕もケイスケカンダの服を360日くらい着ています。手縫いのチクチクだったり、よくあるような3本ラインのジャージだったり、セーラー服、学生服をテーマにして服をつくっている方です。モデルは本当の高校生です。公募して、撮ってほしいという子を、2人で撮りに行った作品です。「卒業写真の宿題」というタイトルになっています。高校生活の中で、いろんな写真を撮られたり、最後アルバムに残ったりすると思いますが、そういったアルバムに載らないような、自分たちで本当に撮りたい写真というのを、撮ってみようということになりました。そこでケイスケさんが、その子たちにオリジナルの制服をつくって、1枚写真を仕上げるというファッション写真です。ふつうのファッション写真とは、違う撮り方をしています。こうやって長い時間をかけて、しっかりと撮りたいと思っていたので、すごく息が合ってつくってきた作品になっています。

それぞれ、事前に会ってどういう写真を撮りたいのか、どういう高校生活だったのか、どういう今の自分を残したいかという事を高校生からヒアリングして、それをなるべく形にして撮りました。

高校生活に、自分なりに悩みもあって、人のものさしで自分を測ってしまうというか、自身の価値観で、人を判断できない自分を表現したいということで、人の価値観みたいなことを表現するために、混沌とした写真が良いと言っていたので、すごく人がたくさんいるところがいいだろうと駅前で撮影したものもあります。

この友達と撮りたいとか、わたしひとりで撮りたいとか人によってさまざまです。

制服は誰もが着るもので、ファッションかと言われれば、ある意味遠いと思います。配布されて、その中で着こなしとか、それぞれ楽しんでいる方もいると思いますが、制服自体にすごくオリジナリティがあります。

「卒業写真の宿題」といって、現役の高校生をモデルにして撮った作品と、もうひとつ別に、「卒業写真の自由研究」というものがあります。実際「卒業写真の宿題」は、高校生限定だったので、高校卒業した人は撮れませんでした。高校卒業した人も、すごく撮りたい、撮ってほしいという声があったので、高校卒業したメンバーを集めて、ひとつのクラスをつくって、ファッション撮影をしています。「卒業写真の宿題」とは撮り方が全然違いますが、ケイスケさんと一緒につくった作品です。

＞林間学校＞学校生活＞修学旅行

全国で公募したので、みんなバラバラの学校からの参加です。四国からひとりで来ていたり、九州から来たり。普通ファッション撮影はスタジオでモデル使って撮ることが多いのですが、そういったいわゆるモデルじゃない人たちとファッション撮影をしてみたいというのがあって、声をかけたら来てくれました。本当に林間学校や修学旅行を卒業したみんなに味わってもらいたくて、その中にファッションや服があるということをしたかったので、林間学校は林間学校らしくキャンプファイヤー囲んで、みんなでマイムマイム踊ったり、学校での撮影のときもみんなで歌を一緒に歌ったりしていました。

お弁当はみんなに作ってくれるようお願いしました。「ケイスケカンダ」はぞうさんマークのブランドなので、ぞうさんの焼き印が入っているものや、ぞうの形のパンを頑張って作ってきてくれました。みんなのこだわりが詰まったお弁当でした。撮影時につかったジャージなどはコレクション並に全部つくっていらっしゃいました。これらは全部でっちあげの行事なんですが、浅田家と同じ撮り方です。ただその撮り方を、ファッションのデザイナーが一緒にこんなに時間をかけて、一緒に作品をつくろうと言ってくれた仲で、すごく思い出があります。この子たちもたぶん緊張して、自分で応募してきてくれたと思いますが、それぞれの中で、撮影の思い出がひとつでも残れば嬉しいなという思いで撮影しました。アルバムの後ろによく載っているようなシーンばかりを撮りたくて、よくあるようなコースで、よく

あるような写真を撮っていました。

（撮影ワークショップ）

今日は、みなさんと1枚思い出に残るような写真を撮りたいと思っています。

今日はピンクとか赤色の暖色の服着ていただいていると思います。あとメガネ持っている方は、メガネを着用してください。それで、皆さんが並んで撮ってもつまらないじゃないですか。だからみんなでどういった写真を撮ったら面白いのかということを、今から決めたいと思っています。

せっかくなので赤い感じとか、福井らしい感じとか、仁愛らしい感じとか、みなさんでやるからこそ意味があるようなポーズを考えてください。

＜今回の私たちの卒業制作のテーマが、リレーなので、つなげるっていう意味で、みんなでバトンを渡していくという＞＜みんな赤い服なので、寝転がって、ハートをつくる＞＜メガネの上からメガネ＞＜さっきのリレー案のバトンをメガネにして、メガネリレー＞＜家族写真＞＜空気イス＞＜一列に並んで、全員足をクロスして、手をこういう感じ＞＜仁愛の天上天下のポーズ＞＜動物園＞＜初恋の顔＞＜建物を生かして、螺旋状にいっぱい並べるので、真っ白で赤で面白いかな＞＜みんなで手つないでわ～～～みたいな＞＜みんなで肩を組んで、メガネを持ちながらキス顔＞＜福井なので、蟹をつくる＞＜かめはめはがしたいみたい＞＜とぶやつ＞＜福井もしくは仁愛＞＜千手観音＞＜この隣の公園に遊具があって、航空写真で見ると、フェニックスの形になってる＞

ここはハートをつくってみましょう。

バレンタインですし、昨日終わっちゃいましたね。終わったけど、一日遅いバレンタインということで、みんなでハートつくりましょう。

ちなみに顔も大事ですよね、ハートを作ったとしてどんな顔で撮りましょうか。

＜キス顔＞＜ウィンク＞＜惚れ顔＞＜変顔＞＜甘い顔＞

多数決の結果撮るときにウィンクをして撮影します。

（みんなでハートをつくる）

（作品講評）

この記念写真は、また後日みなさんの手元にデータとしてお渡しするので、こういう日もあったかなと、残しておいてください。

何十年後に見たら、学生のときの写真だなと思い出もここに写っていると思うので、楽しみに待っていてください。

今日は本当にみなさんありがとうございました。

みなさんもまた自分の追い求める作品や自分のやりたいことをしながら、良い作品が生まれることを、陰ながら祈っておりますし、みなさんになら出来ると思うので、頑張ってほしいと思っております。

あとは、家族写真もみなさん、年に1回とか2回くらい全員で撮って、それを思い出にとっておいてもらえれば、ゆくゆくは良い写真に必ずなると思うので、撮っていただきたいなと思っています。

（Photo:浅田政志）

幼児教育公開講座

おもちゃインストラクター養成講座
～遊びの専門家になろう～

おもちゃコンサルタントマスター　荒木　舞・原　孝子

NPO法人グッド・トイ委員会認定

日時：平成25年5月18日(土) 13:00～16:00・19日(日) 10:00～16:00

◆講座要項掲載内容◆

〈1日目〉2013年5月18日(土)　13:00～16:00

【講座①】おもちゃインストラクターはじめの一歩
子どもに接する現場での役割や意義を通して、おもちゃインストラクターの心構えを学びます。

【講座②】子どものおもちゃ学入門
子どもの成長・発達とおもちゃの関係から、現代の子どもの生活までをおもちゃや遊びを通じて学びます。

【ワークショップ①】画用紙は手作りおもちゃの魔法の材料
１枚の画用紙から「江戸からくり玩具」３つを作る不思議な不思議な魔法のワークショップです。

【ワークショップ②】牛乳パックはおもちゃの材料の王様
牛乳パックを征するものは手作りおもちゃを征します。人気 NO. １の玩具に挑戦！

〈2日目〉2013年5月19日(日)　10:00～16:00

【講座③】手作りおもちゃ・既製品玩具の遊び論
ハンドメイド・トイとメーカー・トイの融合を目指す、子どもとの上手な付き合い方を学びます。

【講座④】はばたけ！おもちゃインストラクター
子ども同士、保育者と子ども、親子、祖父母と孫などの様々な人間関係を結ぶおもちゃの多世代交流論を学びます。

【ワークショップ③】新聞紙をとことん楽しむ おもちゃ遊び
身近な素材を使って、様々な遊びを生み出す伝説のワークです。身につければあなたも地域で人気者！

【ワークショップ④】世界のおもちゃで遊ぶ・学ぶ
世界各国の優良おもちゃで遊ぶことを通して、おもちゃを通じたコミュニケーション術を学びます。

昨年度の幼児教育公開講座では、多田千尋先生（東京おもちゃ美術館館長）に「おもちゃのチカラ～子どもの感性を育むために～」というテーマで、ご講演をしていただきました。その中で、「おもちゃインストラクター」という資格をご紹介いただいたところ、参加者の方から「ぜひ取りたい！」「福井で実施してほしい！」というご要望があり、ついに本学で「おもちゃインストラクター養成講座」を開催することとなりました。当初は1講座開催を予定していましたが、たくさんの申込希望があったため、急遽2講座の開催となりました。約2日間のプログラムを経て、なんと116名の「おもちゃインストラクター」が誕生しました。年齢も10代から60代まで（図1参照）、職業も学生から保育・教育関係者、地域でボランティアをされている方、会社員、主婦などまで、幅広い層となりました。講座の中では、グループになってメンバーや他の参加者と交流をしながらの活動が多かったため、さまざまな参加者がいることで、より刺激し合うことができたことも大きな楽しみとなったようでした。

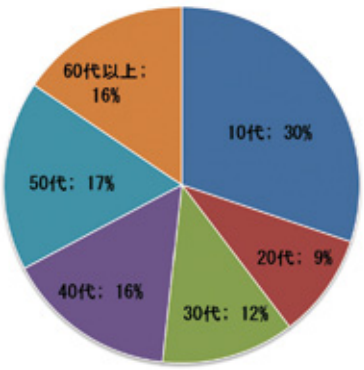


図1.参加者の年齢構成

講座は、講座要項掲載内容のように、理論的な部分を学ぶ「講座」と実際におもちゃを作る「ワークショップ」がプログラムとして組まれていました。まさに、おもちゃの魅力や大切さを頭と身体で吸収することができる内容でした。

（写真1）6〜7名の参加者でグループになって活動しました。はじめは知らない人同士だったのが、2日目が終わる頃には仲良しに！

（写真4）てんとう虫のコマを使ったじゃんけんです。自分も何が出るかわからないのでドキドキでした！

（写真2）講師の先生がたくさんのおもちゃを持ってきてくださいました。これらのおもちゃに触れるだけでも笑顔になりました。

（写真5）2日目には、教室を飛び出して広い場所へ！新聞紙を使って、体も使って、遊びました。

（写真3）かわいい人形型のけん玉に挑戦！みなさんに真剣になっていました。難しいだけに成功した時の喜びは大きい！

（写真6）息を吹き入れるとビニル袋がニョキニョキっと膨らみます。そのたびに見ている人から歓声が！

本講座に関して、参加者の方にたくさんの感想をいただきました。以下に、その一部を抜粋してご紹介します。

• 子どもに玩具を与えるためには、専門的な知識を得ることや、よい玩具を見極めることも必要であると学びました。

• とても素晴らしい時間を過ごさせていただけました。レクリエーションやリラックスの時間として過ごすことができた雰囲気に、講師の先生のご指導の素晴らしさを感じました。

• たくさんのおもちゃ作りを通して、子どもとのかかわり方のポイントを、的確に教えてもらえて、大変ありがたかったです。これからのボランティア活動に生かしたいです。

• 1枚の新聞、1つの牛乳パック、1つの画用紙から、無限

に等しい遊びやおもちゃができる素晴らしさ、それにつながる子どもの無限の可能性をうまく未来につなげることは、先に生まれた私たちの役目だと思いました。

• おもちゃは使い方や遊び方ではなく、それを使って遊ぶ方が主役であり、主役の創造力、想像力が多様なものを作り出し、それに喜びや楽しみが加わって倍増すると感じ入りました。

• おもちゃの意味や、おもちゃを与える側として気を付けたいことなどを学び、再認識することができました。

• 身近にある材料などでたくさんの遊びがあり、またその材料に手を触れると自然と何らかのアイディア・遊びが幾通りも出てくるという驚きや感動、不思議さが伝わり、好奇心などが芽生えて、他の人とのコミュニケーションも大変楽しい講座でした。自分にひとつ自信といいますか、子どもたちに接するプロセス身につけることができました。

• 最近は、高価なおもちゃに目がいく時代であるが、家庭で保護者が子どもたちにすぐやってあげて一緒に遊べるものをもっと家庭に普及できるといい。

• 童心にかえりました。子どもたちとこんな楽しみ方が大事だと感じました。

「このような講座をたくさんしてほしい！」という感想も多くいただきました。来年度からも、「おもちゃインストラクター養成講座」やフォローアップ講座などさまざまな講座を企画していきたいと思います。

（文責：青井夕貴）

工作・おもちゃ専門家を養成

仁愛女子短大講座に120人

手作りおもちゃや工作遊びの専門家「おもちゃインストラクター」を養成する集中講座が十八日、福井市天池町の仁愛女子短大で始まった。学生や子育て中の母親ら計百二十人が、子どもの発達に欠かせないおもちゃづくりを体験し、その役割を学んだ。

「おもちゃインストラクター」は、NPO法人グッド・トイ委員会の認定資格。資格取得には、二日間で計八時間の講義、実習が必要とされる。講師は、さらに上位の「おもちゃコンサルタントマスター」の資格を持つ荒木舞さん（富山県）と原孝子さん（福岡県）が務めた。

初日の実習は画用紙を使ったからくりおもちゃ作りがテーマで、色画用紙を使ったおもちゃ作りに挑戦する参加者たち＝福井市の仁愛女子短大で

六角形の紙の中心から絵が飛び出す「六角返し」づくりに挑んだ。画用紙を折り曲げて土台を完成させ、「オタマジャクシが生まれてカエルに変身」「イチゴの花が咲いて実を付けた」などと三コマ物語の絵を描いた。最終日の十九日は、身近な新聞紙や牛乳パックを使ったおもちゃ作りを行う。（北原愛）

日刊県民福井（平成25年5月19日付）の記事

仁愛食育推進事業

平成25年度 仁愛食育講座

仁愛女子短期大学 教授　岸　松　静　代

1. はじめに

今年度は4回シリーズで同講座を開催しました。定員20名で募集し、本学教職員2名と学生3名が指導及び補助をする体制で、土曜日に実施しました。

2. 講座内容

【第1回】　6月29日

白飯、沢煮椀、くず桜

照り焼きつくねバーグ

オクラ、トマト、わかめの煮びたし

（参加人数　21名）

春から初夏に向く日本料理です。野菜たっぷりの汁物、鶏ひき肉を使ったハンバーグは鶏軟骨を加え歯ごたえを楽しみます。オクラやミニトマト、わかめの煮びたしは旬の素材を楽しめる一品です。あんこが透けて見える夏のお菓子のくず桜も、清涼感を醸し出してくれます。

【第2回】　7月20日

鶏のカレー包み焼き、きのこサラダ

パンナコッタ

（参加人数　20名）

夏の西洋料理です。夏休みを迎えるので、主食と主菜が一緒になっていてカレー風味のこの料理はお昼ご飯に最適の一品です。

鶏肉の表面を香ばしく炒めてレモン汁の酸味を加えてからカレーピラフにのせてオーブンで焼くのです。鶏肉の中まで火が通り、肉汁はピラフに吸われるのでピラフもおいしくなります。スープかサラダをつければ十分な献立になります。今回はきのこたっぷりのサラダとデザートを添えました。

【第3回】　10月5日

白飯、酢豚、春雨スープ

白菜辛味あえ，中国風かりんとう

（参加人数　17）

秋の中国料理です。お米のおいしい季節です。ごはんがすすみそうな献立です。豚肉と野菜たっぷりの甘酢あんかけである酢豚に具だくさんのスープをあわせました。秋から冬にかけて出回る白菜の酢の物とお菓子を添えました。

【第4回】　11月2日

チャウダー、豚肉とりんごのソテー

レタスサラダ、シフォンケーキ

（参加人数　23名）

冬の西洋料理です。魚介と野菜がたっぷりのクリームスープです。アメリカが発祥のスープです。早く牛乳を加えると、貝のコハク酸の影響で牛乳にブツブツが出来たり、

野菜の火通りが悪くなったりします。主菜は、豚肉と相性が良いとされるりんごを一緒にソテーしたものです。りんごの甘酢っぱさが豚肉の脂っこさをやわらげてくれます。レタスのサラダとふわふわのシフォンケーキを添えました。

今年から回数が少し減りましたが、毎回、参加者は和気あいあいと実習していらっしゃいます。家庭料理の経験の浅い方もベテランの域に達している方も、それなりに何か得るものがあるようです。どうしてもマンネリになりがちな毎日の食卓を豊かにしていくための刺激剤の一つになっているようです。班で作った料理の試食をしながらのおしゃべりも、良い気分転換になっているとのことでした。年代も幅広くなり、変わった料理が知りたいとか、和食の基本をきちんと知りたい、季節に収穫できる野菜の料理法を知りたい・・など皆さまの要望は様々ですが、少しでもその要望に応えられるような講座にしていきたいと思っております。今年度も、ぜひご参加下さい。

保育者ワークショップ

「かたち」発見

仁愛女子短期大学 教授　重　村　幹　夫

1.　はじめに

私は、様々な場で造形教育、造形活動を行って、絵画を描いてもらったり、私の絵画を鑑賞してもらったりしてきました。そのような場で、私は、多くの人が、「何を描こうか」、「何が描いてあるのか」といった具体的なイメージを前提に、絵画を描き始めたり、絵画を鑑賞したりすることを見てきました。その経験から、一般に、多くの人は、絵画表現や絵画鑑賞の時に、その絵画の意味にとらわれ過ぎているのではないかと考えています。また、若者の中には、アニメや漫画に出て来るようなキャラクターや、いわゆる「ゆるキャラ」といったものに、強い興味を示す者もいます。自由に絵を描かせると、このようなキャラクターを描こうとするのです。私は、キャラクターは造形というよりは記号であると考えます。キャラクターに興味がある人は、「○○」といったキャラクターの名前とイメージ、すなわち記号に反応します。そこには表現や鑑賞といった造形の関わりがないことはないでしょうが、極めて限定的にならざるを得ないと考えています。このような、表現の意味、記号へのこだわりは造形にとって否定されるものではありません。しかし、絵画表現や絵画鑑賞の上で、意味や記号だけでは、表現の多様性を表現、受容することは不可能ではないでしょうか。

幼児の造形表現に日々向き合う保育者にとっても、このような、多様な造形の表現能力、受容能力は、大変重要なことであると考えます。

2.　開催日及び受講者数

日　　時／平成25年10月5日（土）　13:30～15:00

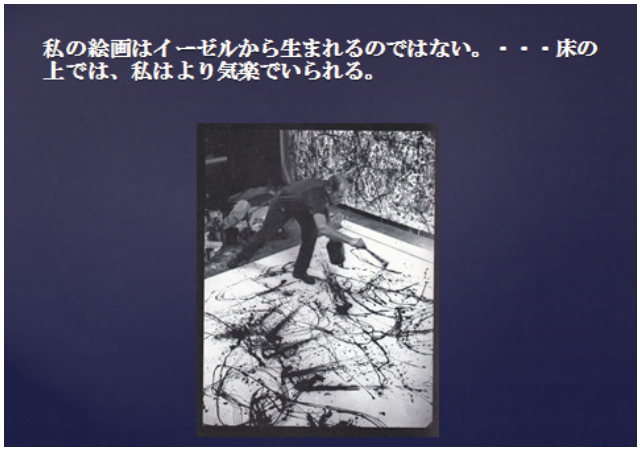
受講者数／4

3. ワークショップの内容

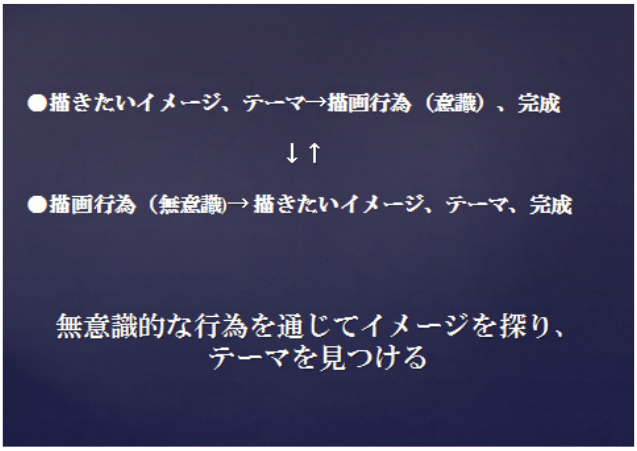
このワークショップでは、最初に、パワーポイントを見てもらいました。この中で、具象絵画と抽象絵画を見比べてもらい、どちらが好きか答えてもらいました。

受講者は、全員予想通り、具象絵画の方が好きだと答えていました。その理由を尋ねると「何が描いてあるかはっきりわかるから」との答えでした。他の作品も、同様に見比べてもらいましたが、答えは同じでした。

次に、20世紀アメリカの抽象絵画の画家Jackson Pollockの言葉を引用して、彼の制作方法を説明しました。



Pollockの作品は、床に置いたキャンバスの中に画家自らが入って、塗料を垂らしながら描かれます。その制作過



一般的に絵画制作は、描きたいイメージ、テーマがあって、意識的に描画行為を行い、完成に至ります。それに対し、Pollockの作品は、無意識的な描画行為が初めにあり、描画行為を通じてイメージやテーマを探り、完成に至ります。それは、多分に偶然的なものですが、出来上がった作品は必然性を帯びてくるのです。

このワークショップでは、Pollockの描画過程を参考にしながら、抽象絵画を作り上げてもらうことにしました。そのため、受講者に、まず、色画用紙を無意識に近い状態で自由に切り取りながら面白い「かたち」を見つけてもらいました。そしてそれを組み合わせて画用紙に貼り付け、絵画を作ってもらいました。最後に、このような無意識的な行為を通じて出来上がった作品にテーマをつけてもらいました。テーマには擬音語を選んでもらいました。擬音語とは、メーメー（羊の鳴き声）、ブーブー（豚の鳴き声・ブーイング）、ドキドキ（心臓の鼓動）、ガチャン（ガラスの割れる音）、ドカン（爆発音、衝撃音）などです。

3.　おわりに

アンケートの結果は、概ね好評でしたが、受講者が4名と少ないのが残念でした。このようなワークショップを増やしてほしいとの意見もありました。今後のワークショップとしては、保育現場の実践にすぐ役に立つもの、すぐには役に立たないように思えても、造形教育として必要なもの、それぞれをうまく組み合わせることが望ましいと考えています。

保育者ワークショップ

カラダをひらく コトバをひらく ココロをひらく
～歌う楽しさの原点にあるものは？～

仁愛女子短期大学 講師　増　田　　翼

◆講座要項掲載内容◆

歌うことが楽しい！と思えるのはどんな瞬間でしょうか？「こうしなきゃ、ああしなきゃ」と音楽の規則を意識するのではなく、自分自身をひらき、自由に様々な想いがあふれ出てくる、これこそ歌が楽しいと思える瞬間ではないでしょうか？今回は、保育現場で歌われることの多い曲をいくつか用意しながら、参加者の皆さん自身がカラダ・コトバ・ココロをひらいて思う存分歌う楽しさを味わっていただければ、と思います。

◆開催期日◆

平成25年11月16日（土）13:30～15:00

◆開催内容◆

1. はじめに

本来、遊びも学習も自発性あるいは自主性が重要であることはいうまでもありません。自ら考えそれを表現していく、というプロセスを人間は原則的に求めているとも考えられます。ですから当然、「歌う」という行為においても、この点は同様なはずです。ところが、実際の音楽活動（音楽指導）の場面はといえば、「ここはこういう風に歌いましょう」「リズムが違います」など、先生が自らの楽譜解釈をもとに考えを示し自分の思い描く音楽（楽譜に描かれた音楽）に近づけていく、という方法が主流となっています。このような方法は、もちろん「音楽」を学ぶうえでは欠かせないものですが、他方で、子どもにとっては自分の想いとはかけ離れた「音楽」になってしまい、楽しさからは遠ざかってしまいます。

余談にはなりますが、上記のようなことを私自身、これまで何度も経験してきました。かつて子どもたち（幼児・小中学生・高校生の合同合唱）に音楽指導をする機会があったのですが、そのときに選曲されたのが「怪獣のバラード」（岡田冨美子作詞、東海林修作曲）という歌でした。周知の通り、この曲は細かいリズム感が要求され、またその音一つひとつに歌詞がつけられており、子どもが歌うには難点がいくつもありました。そのため練習は思うように進みませんでした。

ある日、私は発想を変えて「この歌に出てくる怪獣さんてどんなかな？」と子どもたちに尋ねてみることにしました。すると、子どもたちは「メスの怪獣さんを探してるんだ」（あれ？そんな歌だっけ…？）とか「恐竜みたいに緑色でしっぽが長くて…」（そういえばどんな姿か考えたことなかったな…）とか一人ひとり様々な、しかも活き活きとしたイメージを抱いていることが分かりました。そこで、出てきたいくつかのイメージを全員で共有しながら歌ってみると、不思議なことに今まで難しかった箇所もしっかりリズムを刻めるようになったのです。

私はこの経験を通して学びました。自分が抱いているイメージはなんて貧弱なんだろう、と。一人ひとりこんなにも色鮮やかなイメージに沿って歌っているのに、それを無視して、勝手にこちら側の考えを押しつけるやり方は、特に小さい子どもたちには意味がないのかもしれない、と。

それ以来、子どもとの音楽活動の時間には、楽しさから入る音楽指導とは、そしてその具体的な方法とは、という点を念頭に置くようになりました。今回の講座はこのような経験のもとに成り立つものです。では、実際に講座当日に行った内容の一部を以下にご紹介したいと思います。

2. カラダをひらく

「体を楽器のようにして」「体全体を使って歌いましょう」などのいい回しはよく耳にしますが、実際に体を意識し、体の動きを歌に活かすというのは難しいものです。特に子どもと一緒に歌うと、きれいな声（子どもに通りやすい声）で歌うことに慣れてしまい、どこに向かって何を伝

えるのか、という実感を交えた声の出し方を忘れてしまいがちです。その結果、歌詞の言葉（音韻）が上滑りした歌になってしまうことも少なくありません。この点について深く考えていただきたいと思い、今回は「うさぎとかめ」（石原和三郎作詞、納所弁次郎作曲）を題材として用意しました（竹内敏晴『教師のためのからだとことば考』筑摩書房、1999年、91-96頁で紹介されているものを参考にしました）。

そもそもたいへん有名な歌ではありますが、この曲を4番まで歌い通す機会はあまりないかもしれません。ぜひ一度、目を通してみてください。するとこの曲は、高慢で落ち着きのないウサギと、ゆったりマイペースなカメの対比が基調になっていることが分かります。さらによく読んでいくと、どうしてカメは敢えてウサギに競争をもちかけたのか、という疑問や、ウサギだけ一人慌てふためいている様子などに気づくことでしょう。

このように歌詞を読み合せていくだけでも面白いのですが、この題材の味噌は、参加者がウサギグループとカメグループに分かれて、実際の役柄を演じるという点にあります。ウサギもカメもお互いに、歌詞を読み解きながら「ああでもないこうでもない」と議論を交わしたうえで、実際に演じながら歌うのです。「この場面のウサギなら、もっと偉そうに腕を組んで歌わないといけないだろう」とか、「カメはあまりウサギのことを気にしてないかもしれない」とか、どんどんイメージが膨らんでいきます。参加者同士の解釈が生まれるわけです。さらにお互いの解釈を表現を通してぶつけ合わせるのです。

もちろん、指導者（伴奏者）も歌い手の気持ちを汲み取らねばならないので、休んではいられません。カメグループが低い声色で「むこうのおやまのふもとまで」と歌うならば、伴奏も1オクターブ下げてみようか、ウサギグループがぴょんぴょん跳ねながらカメグループを罵る場面では、軽快でアクセントの入った伴奏にしようか、などなど。そういった即興で行われる一回限りのやりとりのなかで、お互いの表現を探り合う点に、この題材の楽しさがあります。また楽しさと同時に、歌には必ず方向性があるということを、つまり「カラダをひらく」とは、届けようとするその方向（相手）にしっかりと意識を向けることだという点を、この題材では体験することができます。

3. コトバをひらく

子どもに限らず私たち人間は、歌うとなるとメロディーやリズムに気を取られることが多く、歌詞に対する注意がおざなりになる傾向があります。それはやはり「歌」としての完成を先走るあまりの結果といえるでしょうか。しかし、歌詞の言葉を大切にし、その言葉一つひとつを互いに共有することこそ、歌うことを楽しくする秘訣です。今回の講座のなかでは、「どんな色がすき」（坂田修作詞・作曲）という曲を題材に、この点についても考えてみました。

この歌には、タイトルで問われているように「あか」「あお」「きいろ」「みどり」という四つの色が出てきます。そこで私は、わざと参加者に赤のイメージを尋ねてみました。すると、「明るい」「元気な」「お日様のような」「リンゴみたいな」など様々なイメージがもち上がります。「せっかくですので、実際に元気なイメージで歌ってみましょう」「今度はお日様のイメージで」と次々に提案すると、参加者の歌い方（声質）はイメージごとに明らかに異なるものとなりました。参加者同士が互いの声色を聴き入れながら調整

しているのが分かります。さらに歌った後に、「今のはどういう感じがしましたか」と尋ねると、「元気」のときは力強くなるけれど、「お日様」のときは優しく歌うようになる、などイメージに合致する歌い方を一人ひとりが様々に工夫しながら表現し、その表現をまた互いに共有している様子が窺えました。

たしかに音の高さを確認したり、リズムを合わせたりする練習方法はごく一般的なものですが、「はいもう一度」「ここの音の高さは…」という繰り返しは、練習を単調で受身的なものにしてしまいます。それよりも、歌詞にうたわれている情景をみんなで共有するなどして、歌に自分から気持ちが込もるような環境構成を心がけることで、何度も同じ場所を歌っても苦にならず、楽しさを伴った練習が展開できます。副次的に、他人の声を聴きながら何度も歌うことで、自然と音程やリズムも獲得できてしまうのです。

ところで、この曲には「いちばんさきになくなるよあかいクレヨン」という箇所がありますが、皆さんはどのようなイメージでここを歌っているでしょうか。一番先に赤のクレヨンがなくなって「悲しい」のか、それとも一番先になくなるから「嬉しい（また新しいのを買ってもらえる）」のかが、この歌詞を読むだけでは判然としない点にお気づきでしょうか。実際に歌ってみても、どちらともいえる感じがします。こういう箇所こそ、子どもたちと交流できる大切な場所になります。私は、もし子どもたちから「悲しい」という意見が出たならば、伴奏（原曲：ト長調）を「いちばんさきになくなるよ（C→Cm→G・Bm→Em）」とし、もし「嬉しい」という意見が出たならば、「いちばんさきになくなるよ（C→C♯dim→G・B→Em）」と弾くなどして、歌い手の気持ちの後押しをするように工夫したりします（市販されている伴奏用の楽譜は、C→C♯dim→G・B→Emで書かれています）。

本来、言葉には発せられる状況や雰囲気が伴っています。もちろん発する側の感情や意図も含まれています。つまり、言葉一つひとつに異なる質感が漂っているはずなのです。その言葉の集合体が歌になっているのだとすれば、メロディーやリズムに必要以上に執着するよりも、言葉ありきの歌唱指導、すなわち「コトバをひらく」歌唱指導を目指すべきなのではないでしょうか。

4. さいごに〜ココロをひらく〜

子どもは、季節に応じた様々な歌をうたいます。その際、「季節を味わう」ということとともに、子どもにとってみれば、「季節に対して」歌っているということを忘れてはいけません。たとえば、「ゆき」（文部省唱歌）という曲を歌うのであれば、雪「を」歌っていると大人は考えがちです。しかし子どもは、雪「に」歌っているのかもしれません。それはつまり、出来事や対象を歌でどう表現するか（大人）ということではなくて、目の前の相手に歌でどう気持ちを届けるか（子ども）ということなのです。だからこそ、子どもの歌には「届け先」が必要になります。届け先が見当たらないのに歌わなければならないから歌う、というのはやはり少し違うように思います。届ける相手が違えば声色が変わるのも当然。歌詞に込める想いの微妙な違いをしっかり受け止めて、その違いをみんなで確認し合う。そういった音楽指導を通じて「ココロをひらく」ことが、とりわけ子どもとの音楽活動では重要になってくるのではないでしょうか。

さて、当日のワークショップにご参加いただいた方々からはたくさんのご意見を頂戴しました。なかでも要望としてあげられておりました、乳児・年少児向けの音楽活動についても、今後このような機会がありましたら用意していきたいと思います。

保育者のためのパソコン教室

仁愛女子短期大学 准教授　田　中　洋　一

1. はじめに

保育現場でも日常業務の道具として、情報通信技術（ICT, Information and Communication Technology）が活用されています。今年度の本講座は、昨年度と同じ内容（保育現場での代表的な活用例である園児データなどの管理と音楽・映像データの編集・活用）を通して、保育者のICT活用能力の底上げを目的としました。

2. 開催日および受講者数

今年度は、9月7日（土）9時～16時に第1回講習「静止画で簡単ムービー作り（田中洋一担当）」、11月2日（土）9時～16時に第2回講習「エクセルを使ってデータを管理しよう（乙部貴幸担当）」を企画しましたが、第1回の申込者数が5名（受講者数4名）、第2回の申込者数が2名（開催中止）と極端に減少しました。当日は、情報メディア教育支援室スタッフ、生活科学学科生活情報専攻の学生数名がアシスタントを務めました。

3. 講座の内容

第1回　「静止画で簡単ムービー作り」

パソコン操作に慣れている方を対象に、Windows Media Playerを用いた音楽CDの取り込み方法及びムービーメーカーを用いた動画編集を学んだ上で、ショートムービーを作成し、DVDを完成させました。

①CD等からPCへ音楽を取り込み、保育CD作り

Windowsパソコン標準のWindows Media Playerを用いて、CDから好きな曲を取り込み、好きな順番で音楽を聴く。

リストに基づき、オリジナルCDを作成。今回の講座に関係する情報倫理（著作権、個人情報、肖像権）も学ぶ。

②画像の簡単な加工をしよう

ペイントを用いた画像の拡大・縮小、トリミング等の方法を学ぶ。同様に、Microsoft WordやPowerPoint上での画像編集を学ぶ。

③静止画を用いたムービーを作ろう

Widowsパソコン標準のムービーメーカーに、②で編集した静止画（子どもたちの写真等）を取り込み、アニメーション効果やタイトル・キャプションを付け、ムービー作成。

④音楽をつけて、DVDを完成しよう

③で作成した動画に、①で取り込んだ音楽等を付け加え、ムービーを完成させ、受講者全員で試写会を実施。

4. おわりに

参加者による受講アンケートの評価は悪くなかったのですが、保育者の情報リテラシーが一定のレベルに達したため参加申込者が減少したと考え、来年度は保育者のためのパソコン教室を開催しないことにしました。

新人保育者スキルアップ講座

仁愛女子短期大学　幼児教育学科

本学幼児教育学科の卒業生の多くは、幼稚園や保育所などで、幼児教育・保育に携わっています。学生とは異なり、責任が伴う現場の保育者として、喜びや楽しみと共に、戸惑いや葛藤も感じていることでしょう。当センターでは、そのような卒業生が新人保育者としてさらに力を発揮していけるように、保育実践能力の向上と同期生との情報交換を目的として、毎年夏に、前年度の卒業生を対象としたスキルアップ講座を開催しています。今回も、平成25年3月に卒業した新人保育者30名が参加しました。

日　時／平成25年7月28日（日）　13:00～16:00
場　所／仁愛女子短期大学
内　容／①実技講習
　　テーマ：「保育の中の遊びを豊かに」
　　講　師：大久保郁子（本学非常勤講師）
　　②クラス別分科会
　　テーマ：「友人と語ろう」
　　担　当：本学教員

【実技講習】

今回は、本学の非常勤講師で、幼児教育学科の学生にレクリエーションを教えてくださっている大久保郁子先生から、保育には欠かせない「遊び」を深めるための理論と技術について学びました。よく知られている遊びでも、子どもたちの状況や発達に合わせて工夫することで、新たな遊びに発展することや、遊びの中での声かけの仕方、安全面への配慮などについて、多くの気づきを得たようでした。終了後は、「子どもたちの喜ぶ顔が目に浮かびました！」「明日からすぐにでも実践したいです！」などの声が参加者から聞こえてきました。

【クラス別分科会】

2年間を共にしたクラスの仲間、在学時にクラスアドバイザーだった先生やお世話になった先生と、お互いの近況を報告し合いました。笑いあり、涙ありの時間だったようで、「気持ちが楽になった」「話題を共有できて、うれしかった」などの感想がありました。

（文責：青井夕貴）

iPad基礎講座・Microsoft Excel講座

仁愛女子短期大学　情報メディア教育支援室

(1)活動方針

情報メディア教育支援室では福井ライフ・アカデミーと連携し、本学の夏休み期間中に情報系の講座を開講しています（例年9月初旬）。この講座は、本学の学生や教職員に加えて一般の方も対象です。一般の方にも情報系のソフトウェアや情報機器の使い方を知ってもらい、それらを仕事や日常生活の中で便利に活用してもらうことが目的です。

例年、表計算ソフト「Excel」の初心者向け講座のみを2日間開講してきましたが、平成24年度よりスマートフォンやタブレットの講座も開講するようにしました。情報化社会がますます進み、日々新たな情報機器が登場してきていますので、それらの講座を開くことが有用と考えたからです。

(2)取り組みと成果

本年度はExcel講座に加え、iPad基礎講座を行いました。2013年9月7日(土)にiPad基礎講座を、同年9月8日(日)にExcel講座を開講しました。時間は両日とも9:00～16:00で、それぞれ6名と5名の参加がありました。いずれも一般の方です。

iPad基礎講座は初心者向けの内容でした。iPadでどんなことができるのか知ってもらい、今後の参考にしてもらうことが目的です。iPadの基本的な操作方法、時計、カメラ、マップといった基本的なアプリの使用方法、アプリ・音楽等の購入方法、便利なアプリの紹介などを行いました。iPad等でアプリを購入するには、AppleIDとiTunesカード等が必要になりますが、こちらで用意し、参加者の方には購入の体験をしてもらいました。

Excel講座も初心者向けの内容でした。例年行っている講座と内容は変わらず、データの入力方法、数式・関数の入力方法、書式の変更方法、グラフの書き方について行いました。講義をしながら操作をしてもらい、途中で問題を解いてもらいながら進めていきました。

図1:iPad基礎講座の様子（9/7）

図2:Excel講座の様子（9/8）

(3)まとめと今後の課題

講座後に調査したアンケート結果によると、参加者からは一定の評価が得られました。iPad基礎講座、Excel講座ともに基礎的な内容ではありましたが、基本的な使い方を理解していただくことができました。特にiPad講座の方は満足していただけたようです。昨年度のiPhone講座ではやや高度な内容としてしまったため、初心者の方には難

しくなってしまいました。しかし、今年度のiPad基礎講座では、対象を初心者の方にしぼったため、iPad使い始め、または購入を検討している方にとって非常に参考になったようです。

今後の課題としては、参加者の増加が挙げられます。近年では参加者は減少傾向にあり、開講最低限の人数しか集まっていません。参加人数が少ないと個別対応がしやすいというメリットはありますが、開講する以上、なるべく多くの方にも参加してほしいところです。Excel講座の人数が減った要因は、近年のパソコンの一般家庭への普及にともなってExcelを使用する人も増え、初心者向け講座へのニーズが減っていることにあると思われます。そのため、従来二日間行っていたExcel講座を一日に短縮し、昨年度よりiPhone講座を、今年度はiPad講座を開講するようにしましたが、参加者は多くはありませんでした。参加者を増やすためには、まず、講座の内容を工夫する必要があると思われます。一般の方がどのようなことを学びたいか、ニーズを把握してテーマや内容を決定する必要があります。また、周知方法の工夫も必要と思われます。現在は学生保護者へのプリント配布、仁愛短大の公式Webページでの告知を行っています。しかしながら、森田地域の方への周知が不十分と思われますので、森田公民館へも案内文書を配布してもらうなどの対策が必要と思われます。

地 域 連 携

地域連携開放講座

仁愛女子短期大学 教授　内　山　秀　樹

森田地区将来ビジョン見直しワークショップ

生活環境専攻2回生＆環境デザイン研究室

2007年に本学の森田地区まちづくり支援活動の一環として、地区の将来ビジョンの策定支援を行いました。策定後5年が経過する中で、まちづくりも土地区画整理事業を中心として進み、新しい住民がどんどん流入するなど、森田地区を取り巻く環境も大きく変わったため、ビジョン見直しの必要性が高まってきました。

主催は森田地区文化委員会で、4回の準備・とりまとめ会議と3回のワークショップ(以下、WS)を開催しました。本学からは生活環境専攻環境デザイン研究室の教員とゼミ生4名が準備・とりまとめ会議への参加、ワークショップの企画、運営支援、毎回のワークショップのとりまとめ、最終的なビジョン見直し案の作成を行いました。

3回のWSには、延べ152名の参加をいただきました。第1回目(8/28)は、6つのグループに分かれ、2007年ビジョンについて点検・評価を行いました。第2回WS(9/25)では、2007年ビジョンの6つのまちづくりの柱（河川環境、歴史・文化、健康・スポーツ、交通環境、安心安全、特産品）に加えて、新らたに白紙からまちづくりのアイデアを提案する第7番目のグループを設け、まちづくりのアイデアを出し合いました。第3回目は、テーマごとに出された各プロジェクトについて、重要性、緊急性、実現性の観点から評価しました。

その後2回の文化委員会でのとりまとめ会議を経て、本学ゼミ生によるとりまとめ作業の結果、ようやく2014年3月初旬に『森田地区将来ビジョン　PartⅡ』としてまとまりました。

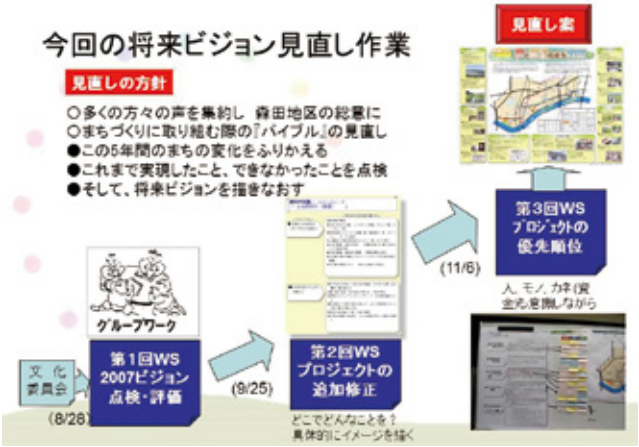


図1 将来ビジョンの見直し手順(8/28第1回WS)

写真1 WSの様子(9/25第2回WS)

写真2グループ発表の様子(11/6第3回WS)

学生たちにとっては10回近くの夜の会議やWSやとりまとめ作業や編集作業は大変でしたが、学ぶことの多い機会だったかと思います。このビジョンは印刷され、森田地区の全世帯に配布される予定です。

図2 完成した将来ビジョン見直し案

森田地区エコキャンドル2013
生活環境専攻1回生＆環境デザイン研究室

今年で3回目、森田まつりの定番となりつつあるエコキャンドルに本学は昨年から参画しています。今年はデザイン画を森田地区民から公募すること、遠近法を用いて遠くの図柄が小さくならないようにすること、次年度以降、新しい人が参加してもわかるように記録集を作ることなどをエコキャンドル実行委員会に提案しました。

そのために、環境デザイン研究室のゼミ生２人を担当者とし、実行委員会やキャンドルづくりに参加しながら写真撮影等を行いました。デザイン画の公募については、「地域環境論」(生活環境１回生)の授業で各自の案を練りました。地元では森田中学美術部の生徒さんから応募いただきました。応募されたデザイン画約60点を森田駅のギャラリーに掲示し、住民投票結果を参考に実行委員会が最優秀賞、優秀賞を決定しました。中学生からの応募が少なかったために、結果的に本学学生の案が採用されましたが、内容は九頭竜川にかかる新橋を新幹線が走る森田の将来のイメージする夢あふれるデザインでした。

図1 記録集表紙／裏表紙

図2 記録集内容

7月27日当日はデザイン画に応募した環境1回生の有志やゼミ生が準備段階から参加し、炎天下のもとキャンドル並べや着火棒の販売等々に活躍しました。記録集は慣れない編集ソフトの操作に四苦八苦しながらも、何とか3月初旬に完成し、印刷に入りました。

もりた夢駅～夏物語

生活環境専攻1回生＆環境デザイン研究室

2008年に始めて6回目。「地域環境論」学習プログラムの一環として、まちづくりについての理解を深めるとともに、企画力、段取り・実行力を高めることを目的に参加しています。今年の環境1回生は50人と大所帯で、6チームに分かれてワイワイガヤガヤにぎやかな取り組みで、企画内容もレベルの高いものでした。

企画の検討は3回の授業時間を費やし、アイデアの出し合い、絞り込み、企画書の作成、準備などを行いました。その結果、提案された各チームの企画は、以下のとおりでした。

A：おまもりたん　　B：電車を走らせよう
C：ライブとステージ飾り　　D：銀河もりた鉄道77
D：オリジナル名刺づくり　　E：俺のかき氷

7/7当日は、午後1時から文化委員会の方々の協力もいただきながら準備をすすめましたが、ステージ飾りに思った以上の時間がかかり、何とか開演の4時に間に合いました。地元の子供たちの太鼓で幕を開け、森田中ブラバン部OBで組織する管楽器グループの演奏に続いて、本学軽音楽サークルを中心とするバンドの演奏と歌に会場からは暖かい拍手をいただきました。

今回の学生企画で高い評価をいただいたのが、『もりた銀河鉄道77』。駅ギャラリー全体を使って、蛍光塗料とブラックライトで銀河鉄道をイメージしたスケールの大きな作品で、多くの来場者から称賛の声をいただき、イベント終了後も1か月展示してほしいといわれました。また、屋外では最初から最後まで踊り続けていた元気いっぱいの『俺のかき氷』も繁盛していました。

今後の課題としては、本来目指していた夢駅の原点に戻ることである。将来運行が想定されるコミュニティバスも含めた交通の結節点として、いつも人が集い、モノや情報が行きかう駅にするにはどうあったらいいのか、という点について深く検討する必要があるかと思います。

写真1 ステージ飾りと学生の演奏

写真2 「銀河もりた鉄道77」

写真3 俺のカキ氷

地 域 連 携

森田地区将来ビジョンを実践へと
～仁愛女子短期大学と共に～

福井市森田公民館 館長　吉　村　公　司

森田公民館を拠点に行っている森田地区のまちづくり事業としてあげられるのは、①森田夢駅　②脇屋義助の学習と石丸城跡公園の整備　③森田まつりでのエコキャンドル　④サクラマスサミット　等である。そして平成25年度は、６年前に作成した「森田地区将来ビジョン」の見直しも行った。その全てに仁愛女子短期大学の先生方のご指導と、学生さんの協力を得ている。

以前からもそうであったけれど、平成22年に森田地区と仁愛短期大学との間で、お互いに連携していこうという協定が結ばれてから、更に緊密になってきた。大学からは、図書館を地元民に開放していただいているし、大学祭と森田地区文化祭を同時開催して、バスで双方を結んで交流もしている。

平成24年11月14日、森田公民館は、文部科学大臣から優良公民館として表彰を受けている。この時の評価の中に、森田地区将来ビジョンというしっかりとしたビジョンを持ち、それに基づいて着実にまちづくりが行われていることがあげられていた。このビジョンは、2007年に内山教授のご指導のもとで、地区民のべ200人くらいが３回にわたるワークショップを経て作成されたものであった。しかし６年を経過して、周囲の状況等の変化で見直しが必要になってきたので、やはり内山教授と学生さんたちの協力を得て、今年度、森田地区将来ビジョンPartⅡを作成した。

平成25年　８月28日　第1回ワークショップ

2007年版の将来ビジョンを見直し、課題を洗い出す。

９月25日　第２回ワークショップ

これまでのテーマ+新規テーマを経て、計画案を作る。

11月６日　第３回ワークショップ

テーマに沿った計画案を、緊急性・重要性・実現性の点から絞り込む。

のべ153人の参加を得て完成した。

平成26年３月15日、福井市自治会館において、市からの要請で森田地区のまちづくり事業の成果発表を、森田地区文化委員の代表が行ったあと、助言者の人から「このようなしっかりしたビジョンを策定し、今日発表されたようなまちづくり事業を行っているところはなかなか見当たらない。地元の大学と、こんなに素晴らしい連携の中でまちづくりが行われているのは、なんと素晴らしいことか」とコメントをいただいた。

この良好な関係を、今後も続けていきたいと願っている。

地 域 連 携

森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携事業報告

地域活動実践センター長　三　和　　優

「森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携に関する協定」が平成22年8月30日に締結されました。この協定に基づいて、平成25年度も相互に連携・協力して様々な事業を展開してきました。

1　森田・仁愛女子短期大学連携協議会

「森田・仁愛女子短期大学連携協議会」が平成25年6月7日19時30分から仁愛女子短期大学会議室で開催されました。森田地区から自治会連合会会長の大島康成氏ほか6名が、本学から禿正宣学長ほか5名が出席しました。

森田地区の出席者（自治会連合会長:大島康成・副会長:白崎徹、運営審議会委員長:片山栄一、文化委員会委員長:高木荘治・副委員長:勝見祐昌、公民館長:吉村公司・主事:吉田智子）

仁愛女子短大の出席者（学長:禿正宣、副学長:水岸誠、学生部長:内山秀樹、事務長:吉川敏通、地域活動実践センター長:三和優・事務:中村澄子

協議事項は、平成24年度に実施した連携事業の報告及び平成25年度実施予定の連携事業についてです。特に連携事業として、もりた夢駅-夏物語、もりた夢市、森田地区文化祭と本学大学祭（10月19日・20日）の連携・協力、夢ギャラリー森田（JR森田駅）の運用と設備充実について意見を交換しました。

2　公民館と地域活動実践センターの事務打合せ

平成26年1月28日に事務レベルの協議を仁愛女子短期大学で行いました。森田地区の窓口である森田公民館からは館長の吉村公司氏と主事の吉田智子氏が、本学からは地域活動実践センター長の三和優とセンター事務の中村澄子が出席しました。ここでは、平成25年度のふりかえりと平成26年度実施予定の連携事業、夢ギャラリー森田（森田駅）の運用状況等について話し合われました。

3　森田地区将来ビジョン見直しワークショップ

2007年に策定した将来ビジョンを見直すことになり、4回の準備・とりまとめ会議、3回の住民ワークショップを生活環境専攻環境デザイン研究室の内山秀樹教授とそのゼミ生4名が支援し、『森田地区将来ビジョンPartⅡ』を取りまとめました。詳細は「地域連携開放講座（pp.22−24）」の項をご覧ください。

4　もりた夢駅〜夏物語2013〜

これは7月7日（日）に開催されましたが、生活環境専攻1回生が「地域環境論（内山秀樹教授）」の一環として参画しました。学生たちだけで「企画の検討、段取り、実行」しました。企画の中で駅ギャラリーに設置した「もりた銀河鉄道７７」が大変好評で、イベント後1か月間の展示を依頼されました。詳細は「地域連携開放講座（pp.22−24）」の項をご覧ください。

5　森田地区エコキャンドル2013

生活環境専攻1回生が「地域環境論（内山秀樹教授）」の一環として参画しました。学生は、エコキャンドルデザイン画の公募の検討、採用図柄の遠近法による展開、記録

集の取りまとめを担当しました。また、7月27日（土）当日は炎天下でしたが、エコキャンドルの準備段階から参加しました。詳細は「地域連携開放講座（pp.22−24）」の項をご覧ください。

6　森田地区文化祭と本学大学祭の連携・協力（10月19日・20日）

森田地区の方々との連携を深める機会として、住民の方々には19日の仁短祭への参加を、本学学生には20日の森田地区文化祭への参加を呼びかけました。昨年は抽選会の参加者が少なかったので、今年はその代わりに「お菓子のつかみ取り」を行いました。

①学生会実行委員会

委員16名が文化祭の販売スタッフとして参加し、森田地区住民の方々との交流ができました。

②生活環境専攻

森田地区文化祭ポスターとチラシのデザインを担当しました。また手作りアクセサリーも販売しました。

③栄養研究サークル

パウンドケーキを販売しました。当日は雨のためラベルの一部がぬれてしまいましたが、販売には差し支えなかったので、ほっとしました。

④書道サークル

森田小学校の体育館で部員の作品を展示しました。

⑤幼児教育学科

「じんあいこどものくに」で人気の缶当てゲームを行う予定でしたが、雨天のため中止になりました。

森田地区文化祭のポスター

栄養研究サークルのパウンドケーキ店

ファッションデザイン研究室のファッション雑貨店

7　もりた夢市（11月10日）

この住民主体の朝市は、地域活性化の取り組みの一つとして、5年ほど前から開催しています。森田地区住民が作ったもの、森田で採れたもの、本学学生が作ったものを販売します。本学からは「仁短の店」として次の出店がありました。

①生活環境専攻ファッショデザイン研究室

2回生6名は、ファッション雑貨を販売しました。あまり売れゆきは良くありませんでしたが、お客さんから「こんな物を作ってほしいという」要望を聞くなど、ニーズの把握ができたという点では、収穫がありました。

さかな(左)とエイリアン(右)のブローチ

②栄養研究サークル

学生7名が手作りパウンドケーキを販売しました。今年もパウンドケーキは大好評で、すぐ完売してしまいました。

8　夢ギャラリー森田（JR森田駅）

地域の方にJR森田駅をもっと身近に感じてもらうため、駅舎内の一画に「ギャラリー」が開設されました。本学と森田地区の方が1カ月交代でそれぞれ作品を展示します。本学の学生が展示した作品は次のとおりです。

①第17集『わたしのマスコットキャラクター』（5月1日～24日）

出品者は生活環境専攻生6名です。今回の作品は、自分自身をキャラクター化してイラストを描き、それを基にして布の特性を活かして立体化して、作品に仕上げたものです。

②第18集『森田銀河鉄道77』（7月7日～31日）

出品者は生活環境専攻生1回生です。7月7日（日）の「もりた夢駅～夏物語～」で制作した「森田銀河鉄道77」の出来栄えがよく、主催者から夢ギャラリー森田にしばらく展示しておいてほしいという依頼があり、期間を延長して展示しました。

③第19集『2.5次元をめざして』（9月6日～9月17日）

出品者はヴィジュアルパフォーマンスサークルの篠、さくのさんです。彼女ら自身がモデルになり、2.5次元の世界をめざし、鷹巣の海やITビジネスプラザ、ハンバーガーランドなど色々な場所で撮影した作品を展示しました。

④第20集『津村節子パネル展』（9月18日～30日）

出品者は附属図書館です。津村節子氏のプロフィール、幼少期から女学校まで、芥川賞受賞への歩み、ふるさと福井を題材にした津村文学の魅力となっている「ふるさと5部作」の解説などのパネルを展示しました。

⑤第21集『色』（10月10日～31日）

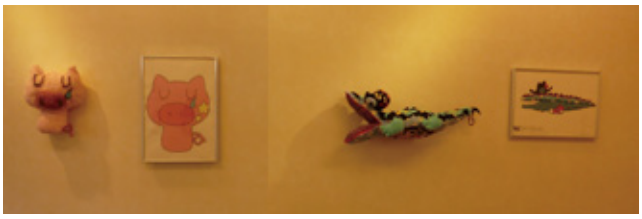
出品者は写真サークルの嶋田侑加、寺山胡桃、藤田瞳、児玉圭奈子、龍田美紀、早瀬未久、柳川仁美さんでした。

⑥第22集『子ども向けのイラスト』（1月10日～30日）

出品者は漫画研究サークルの横田知佐紀、万久あゆみ、中村優奈、飛田真梨子、舟澤槙里子さんでした。

⑦第23集『季節の壁画』（3月3日～26日）

出品者は幼児教育学科1回生です。保育現場で必要とされる季節の壁画を図画工作の授業で共同制作した作品を展示しました。



第17集『わたしのマスコットキャラクター』

第19集『2.5次元をめざして』

第20集『津村節子パネル展』

第23集『季節の壁画』

学生の活動報告

仁愛女子短期大学　生活科学学科・幼児教育学科

フクイ夢アート2013

【JSDハロウィンパーティー】

生活科学学科　生活環境専攻　才場　穂乃花

フクイ夢アート2013最終日は「ハロウィンパーティー」。ハロウィンパーティーとは私たちが仮装して駅前の人たちにお菓子を配るイベントです。今年のテーマは「ファッションモンスター」。みなさんならどんなファッションモンスターになりたいですか?自分のイメージしたファッションモンスターになりきるため、衣装を制作したり、メイクを考えたりしました。そして最終日、駅前にはピエロ、ナース、ドラキュラ、オオカミ、リボン星人、マドモアゼル、囚人などさまざまなモンスターが出現しました。仮装の衣装は、手作りやリメイク。デザイン画から始まり、布を染め、裁断、縫製しました。作っている時は早く着てみたいとウキウキしてすごく楽しかったです。出来上がった衣装を実際に着てみると本物のファッションモンスターになれたみたいで、なりきってポーズをしてみたり、いろんなところを歩きたくなりました。当日、駅前を歩いていると若者からお年寄りまでいろんな人たちに声をかけられたり、一緒に写真を撮ったりと、まるで有名人になったような気分になりました。小さな子供は私を見ると泣き出してしまったり、怖いって叫んでたりしていたけど、お菓子をあげるとありがとうと喜んでくれて、その笑顔を見ることが幸せでした。お菓子をあげるという小さな行動で笑顔が生まれる、それがすごく幸せなことだと感じました。

【じんたんたんたうん】

生活科学学科　生活環境専攻　濱崎　里菜

「じんたんたんたうん。」とは私たち生活環境専攻で企画したフクイ夢アートでの催しの一つです。一般の人や学生が紙で箱の家を作っていき、最終的には大きな街となる参加型の企画です。箱の一面には福井の井の字を表した九つの穴が開いており、その反対の面には福井駅周辺の思い出などを綴ったイラストやメッセージが描いてあります。

じんたんたんたうん。の準備をするにあたって私は箱の展開図の型紙や箱の見本をつくりました。展開図をつくるにしても、どの形の展開図がつくりやすく強度があるのかいくつかの試作と比べ型紙をつくりました。しかし、実際友人に箱をつくってもらったら自分の理想通りの形にならなくてもっと詳しく誰でも簡単に箱を考えないといけないなと思いました。試行錯誤を繰り返し、工夫したことは全て皆に伝えました。

フクイ夢アートが始まり日数を重ねるごとに増えていく箱の家には様々な形の穴が開いていて人それぞれの個性が現れていました。その穴を覗き込むと路面電車のイラストや友達の似顔絵など、その人の思い出がたくさん詰まっていて見るのがとても楽しかったです。

最終日には大きな街ができており、夕方には家一つ一つが明かりを灯し幻想的な雰囲気に包まれました。

私はこの企画を通して自分の考えを人に伝える難しさを知りまた一つ成長できました。

【おはなめもり】

生活科学学科　生活環境専攻　山口　友希

フクイ夢アート2013にて行われた「おはなめもり。」はJSDプロジェクトの企画の一つです。紙に緑のペンで名前を書き、名前の先端には五本の指で指紋のスタンプを押します。名前は『茎』に見立てたもので、指紋は『花びら』に見立てたものです。名前と指紋で咲いたお花は自分という存在の証。この企画を通して、夢アートに参加した人々の証を残したい。参加した人々の記憶として残って欲しい。そう願いを込めて、「おはなめもり。」というネーミングを提案しました。「おはなめもり。」は、私たち生活環境専攻の学生だけでなく、駅前にきた人々誰もが参加することのできるアートワークショップとなっており、実際にたくさんの人々に参加していただくことができました。参加者の作成した「おなは」は壁に展示していくので、数が増えるごとに壁いっぱいにお花畑が広がっていきました。展示されているおはなを一つ一つ眺めてみるとそれぞれ個性が見られます。元気のある色使いで紙いっぱいに描かれたおはなは溌剌とした子供のもの。繊細な花びらで綺麗な色のおはなは上品な女性のもの。このように、おはなを見るだけで、どのような人であるのかが分かりとても面白いです。そして、おはなを通して参加者を思い浮かべる度に嬉しく思うのです。「おはなめもり。」というネーミングが意味したように参加してくれた人々の証を私は確かに記憶として残すことができました。

【だるまさんが、、、ころんだ】

生活科学学科　生活環境専攻　橋本　ゆかり

「だるまさんが、、、ころんだ。」という企画は、生活環境専攻の前田研究室のメンバーで制作した「だるまさん」を展示する企画です。駅前の空きスペースを借りて、だるまさんによる、インスタレーションを行いました。縁起良く、元気よく、転んでもまた起き上がるというイメージがあるだるまさんをモチーフに、メンバー1人1人が手づくりのだるまさんを制作しました。素材は着物（古布）を用い、スラッシュキルトを使ってつくりました。スラッシュキルトとは、布を重ねてステッチをかけ、切り込みを入れ、それを洗って起毛させる技法のことです。古布を上下に重ねることで、布の表情が変わるところに魅力があります。また古布らしさを出すために何度も洗いをかけて、生地そのものをくたくたにし、むかし懐かしい風合を出しました。だるまさんの形が見え始め、顔のパーツや足を作っていく時は、みんなそれぞれ違った表情のだるまさんが出来上がっていき、非常に愛着が湧いていきました。みんなの個性が詰まった15体のだるまさんは、まるで私たちの分身のようにも感じられました。天井から吊るした15体のだるまさんは、ゆらゆら揺れたり止まったりと、「だるまさんころんだ」の遊びをしているようでした。この作品を見てくれた人達も、自分の記憶の片隅にあった楽しかった思い出をおもいかえしてくれたのではないかと思います。

まちなか活性化交流イベント
ふくいまちなか恋文プロジェクトを開催

生活科学学科　生活環境専攻
浅野　萌　　小木　晴菜　　濱崎　里菜

ふくいまちなか恋文プロジェクトとは、JR福井駅西口周辺「エキマエ」の魅力を、写真とラブレター風に綴った文章で表現し、布にプリントしたものを夢ステーションに展示し、多くの人々に見てもらい、福井の良さを改めて知ってもらう事で、まちなかの活性化に繋げるプロジェクトです。まず最初に私たちが、エキマエを散策し、「コイブミ」を贈りたいまちなかを探し、取材しました。ここでは、今まで気付かなかったお店や場所、人の温かさに改めて気付く

事が出来ました。次に、写真と「コイブミ」を制作し、作品発表をしました。感動するエピソード付きの「コイブミ」もあり、また、自分では気付ききれなかった場所を知る事も出来ました。発表後には「コイブミ」を持って、みんなでまちなかへ繰り出しました。たくさんの学生が「コイブミ」を持って歩く事で人々の興味を引く事が出来、とてもいいアピールとなりました。最後には「コイブミ」を一般の方々に投票していただき、投票数が多かった「コイブミ」の取材でお世話になったお店に、オリジナルのお礼状と記念品を持って表彰をさせていただきました。今回、恋文プロジェクトを通して、環境生が一丸となり活動する事が出来、私たちの絆も深まりましたが、エキマエの人々との絆を深める事も出来た様な気がします。

「ふくい健康美食」のロゴマークをデザイン

生活科学学科　生活環境専攻　浅野　萌

私は「ふくい健康美食」のロゴマークをデザインしました。「ふくい健康美食」とは、健康長寿で、幸福度日本一である福井県の豊富な食材を活かし、低塩分で野菜を多く使ったヘルシーなメニューのお弁当や惣菜が認証されるものです。このロゴマークをつくる上で私が一番重要視したのは人間の三大栄養素、タンパク質・炭水化物・脂質の食材のデザインです。バランスのよい食事をイメージできるように、三色食品群の赤・黄色・緑で食材のデザインをしました。赤は体を作る食品の魚、黄色はエネルギーになるお米、緑は調子を整える野菜のほうれん草をポップに描きました。背景には太陽の恵みをイメージした濃いオレンジを基調に、まるで一口食べたかのような凹みを入れた円を置きました。この私がデザインしたロゴマークが、福井県の体にいいと認められた食品や料理に与えられる賞として使ってもらえるのはとても名誉なことだと思いますし、雑誌などでもこのマークがついているお店があるのは、本当に嬉しいと感じます。

鯖江市イメージアップ看板塔デザインコンテスト最優秀賞

生活科学学科　生活環境専攻

松原　むぎほ　　濱崎　里菜

私達は、鯖江市イメージアップ看板塔のデザインをしました。表を松原むぎほ、裏を濱崎里菜が担当しました。

私達が、1番眼鏡らしいと思う部分をモチーフにしました。表は、眼鏡のフレームです。裏は、眼鏡のテンプルです。看板塔なので見た人が遠くからでもわかりやすいように、シンプルにしました。シンプルなだけに配置が際立つので、苦労しました。三角形の中での配置はあまり経験がなかったので、たくさんのパターンを考えて、試しました。文字とモチーフの場所や大きさなどを変えて、バランスを良くし見やすい看板塔にしました。

この鯖江市イメージアップ看板塔のデザインをして、ずっと画面上でしか見ていなかったものが実際に形になり人の目に触れるものになった事が、とても嬉しいです。鯖江市と福井市の間で、鯖江市の出入り口として看板塔の役目を果たしてほしいと思います。これからも長く残るものなので、たくさんの人に愛されるものになれれば幸いです。

南越前町河野観光協会のTシャツをデザイン

生活科学学科　生活環境専攻
嶋田　侑加　　平田　実聖

私達は、南越前町河野観光協会のTシャツをデザインしました。左胸の河野のマークは平田実聖、その他を嶋田侑加がデザインしました。このTシャツをデザインするうえで南越前町河野について調べました。河野地区は海に面している地域で河野海水浴場や、越前がになどの海産物が有名です。そして、河野梅が特産品でもあります。この河野梅をベースにし、Tシャツのデザインを考えました。表面のデザインは梅の花と青梅を散らばせ、左胸にある河野のマークから流れているデザインにして爽やかさを表現し、背面のデザインは「我らがんこな河野人」の言葉と、表面と同様に梅の花と青梅を入れました。この言葉にある「がんこ」とは河野地区の方言で、すごい、きつい（強い）という物事を大きく表現する意味として使われます。この言葉から河野の人は強くて地域愛に溢れた人達だということを表現したいと思い背中にこの言葉を入れました。このデザインが採用され河野地区で配布されたのはとても嬉しく感じております。そしてこのTシャツを色んな人に着てもらうことで河野地区をもっとPRできたらと思います。

仁短祭でのALTとの交流

生活科学学科　生活情報専攻
平澤　美樹　　藤沢　晴華

実施日（活動日時）：平成25年10月18日（土）

私たちは秋の仁短祭で高校のALT（外国語指導助手）の方々を迎えました。初めは話しかけられても分からない単語がたくさんあり、話の内容が分からない時は分かるまで何度も聞き直さなければならないので、ALTの方々と話をすることを避けていました。けれど、私たちにとても優しく、積極的に話しかけてくださり、分からないことがあれば何度も何度も説明してくださいました。優しく接してくださったおかげで私たちからも話すようになり、英語での会話を楽しむことができるようになりました。簡単な英単語ばかりを使っての会話でしたが、身ぶり・手ぶりや表情で表現して通じた時はとてもうれしかったです。ALTの方々に学校内を案内したり、一緒に昼食をとったり、仁短祭の出し物を楽しんだりしました。会話の中で彼らから多くの英語を学ぶことができました。一緒にいるにつれて、だんだん話もスムーズにできるようになり、とても楽しく、時間があっという間に過ぎました。お別れの時間にはまだ一緒にいて話をしたいと思うほどでした。

言葉はなかなか通じなくても、伝えたいという気持ちさえあれば相手も理解しようとしてくれ、自分の思いを必ず伝えることができると学びました。また、英語はただ学習するだけでなく、実際に使ってみることでより実践的な会話力を身につけることができると思いました。話をするのに時間がかかって大変なこともありましたが、外国の人と交流をするというとても貴重な経験ができたことをうれしく思います。来年もこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

ファミリーマートとの連携プロジェクト「ファミマものづくりアカデミー」

生活科学学科　食物栄養専攻

今やコンビニエンスストアには新たな商品やサービスが続々と加わり、コンビニエンスストア各社の競争は激化しています。そのような中、本学生活科学学科食物栄養専攻では、ファミリーマートと連携して商品開発を進める「ファミマものづくりアカデミー」を、2回生を対象に平成25年６月26日に開講しました。この連携プロジェクトは昨年に続き２年目となり、昨年は県産食材を活用した商品８種類を学生のアイデアをもとに開発し、平成25年1月から２月に東海・北陸地方で発売され、好評であったことから今年度も実施することになりました。

1回目のこの日は、ファミリーマート東海・北陸支社の担当者が、同社の概要とコラボレーション商品企画の進め方、商品開発のポイントなどを説明されました。さらに、ファミリーマートで発売されている４商品を試食し、製造を担当している食品メーカーの担当者から商品のコンセプトや開発のポイントなどを聞きました。日頃コンビニエンスストアをよく利用していると思われる学生たちに、まずはどのような商品が売れているのか分析し、商品コンセプトや食材を決定するようアドバイスをいただきました。これらを記入するためのコンセプトシートを配布し、7月上旬に提出することとしました。

2回目は平成25年10月16日に開催しました。学生全員が提出したアイデア商品コンセプトシートの中で、おむすび、麺、パン、デザート（スイーツ）の４アイテムから1点ずつ候補を決め、ファミリーマートの用意したこれらの試作品を試食しながら、改良点を検討しました。

3回目は、平成25年12月11日に商品発表会を開催しました。商品は『ボルガライス風おむすび』、昆布だしであっさり味に仕上げた『レンジカルボナーラうどん』、県産さつまいものとみつ金時を使った『スイートポテトパン』、水ようかんの上に果物やクリームをのせた『パフェna水ようかん』を限定販売することになりました。また、生活環境専攻の学生が考案した３種類の商品ラベルの中から、エレガントなデザインのラベルが採用されました。

当日の取材で、『レンジカルボナーラうどん』を考案した学生は、「家でよく作っていたメニューで、絹さやと卵黄風ソースをのせ、彩りもよくなった」と独自のアイデアが商品化されていった様子を説明しました。この商品発表会については、ホームページ内のブログにも掲載しています。

発売初日の夕方には、商品を考案した学生が顧客に試食を振舞いながらＰＲをしました。県産さつまいものとみつ金時を使った『スイートポテトパン』を考案した学生は、「小さな子どもたちが喜んで試食している様子にうれしくなった」と感想を述べていました。

ファミリーマートとの連携プロジェクトは、全国で30校の大学や高校で行われています。将来、食を専門としていく学生達にこのような機会が得られたことは幸運であり、この経験を生かしてほしいと思います。

じんあいこどものくに

幼児教育学科

◆概　要

日　時：平成25年10月19日（土）　9: 30～16: 00

会　場：仁愛女子短期大学　F館

仁愛女子短期大学の大学祭において幼児教育学科では、子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」と題する企画を催しています。この企画は、学生が主体となり子どもたちが楽しめる遊び場を企画、準備、実践する機会として位置づけられています。

ここでは、その取り組みについて少し紹介したいと思います。

◆クラス別開催内容

1回生Aクラス　おばけやしき
1回生Bクラス　お祭り
1回生Cクラス　迷路
2回生Aクラス　工作教室
2回生Bクラス　ミュージカル
2回生Cクラス　マーケット

大学祭のチラシ

こどものくに　受付

廊下の飾り

1回生Aクラス　おばけやしき（入口）

2回生Aクラス　工作教室

1回生Bクラス　お祭り

2回生Bクラス　ミュージカル（三匹のこぶた）

1回生Cクラス　迷路

2回生Cクラス　マーケット

◆感　想

〈2回生Aクラス〉

私の上手じゃない説明を一生懸命聞いて工作をしてくれてとてもうれしかったです。また、工作教室が終わった後に「お姉さんありがとう。」と言って帰っていく子どもの姿が一番心に残っています。今回の経験は私の力のひとつになったと思います。

〈2回生Cクラス〉

実行委員として参加しました。こどものくにではもっとこうしたら良かったと思うことが多くあったけれど、子どもの笑顔を見ることができました。保育者になったときに子どもが笑顔になれる遊びの場を作りたいです。

AOSSA 子ども家庭センター・子育て支援室・相談室（平成25年度）

URL http://www.fukui-kosodate.jp/

子ども家庭センター・子育て支援室・相談室 副室長　青　井　利　哉

平成25年度のセンターの特徴は、地域支援活動の実践といえます。センターは、福井市との再契約期間期限である平成29年度までの事業計画を立てていますが、地域支援活動の実践は、中期目標に設定していたことでした。今回の報告では、センター基本事業とともに、この点についても報告します。

1. 平成25年度子育て支援室の実績

1）子育て支援室利用数の推移

表1は、平成23年度から平成25年度（3月19日まで）の子育て支援室の利用数の推移です。総延べ利用数は、子どもの利用延べ人数と、その保護者の利用延べ人数を合算したものです。

年度ごとに増加の傾向がありますが、単純にたくさん利用してもらえればいいわけでもありません。子育て支援室の大きさ（約120㎡）と、その中で職員が子育て親子に行き届いたかかわりを行うことを考慮すると、年間あたり総延べ利用数、約22,000人の受け入れが可能であると考えています。

表 1.　子育て支援室の利用者数

	世帯数（世帯）	子どもの延べ利用数（人）	総延べ利用数（人）
H23年度	1,464	7,491	14,431
H24年度	1,507	9,237	17,641
H25年度	1,456	9,708	18,558

2）子育て支援室の子育て講座開催状況

表2は、子育て支援室が企画した子育て講座の開催状況です。子育て講座は、仁愛女子短期大学の先生方や子育てマイスターに依頼しながら、毎年多彩な企画を行っています。特に今年度は、大久保功治先生と仁愛女子短期大学を卒業された伊藤明美先生にフルートとピアノの生演奏をセンターでしていただきました。楽器の持つ豊かな音色は、子育て親子の心に残るものとなりました。

表 2.　子育て講座の開催回数と参加人数

	開催回数（回）	参加人数（人）
H23年度	37	1,426
H24年度	47	1,772
H25年度	71	3,084

大久保功治先生による子育て講座

★グリーンスリーブス
★ユーモレスク
★オーバー・ザ・レインボウ
★七つの子
★となりのトトロ
★さんぽ
★ガボット
★セレナーデ

表 3.　子育て相談室の相談対応実績

単位（件）

	子ども相談	女性相談	ママダイヤル	小　計	（小児科）	（弁護士）	専門相談計	総合計
H23年度	985	858	1,010	2,853	(84)	(67)	159	3,012
H24年度	997	1.040	786	2,823	(129)	(68)	197	3,020
H25年度	787	577	593	1,957	(110)	(72)	182	2,139

2. 平成25年度相談室の実績

表３は、平成23年度から平成25年度（3月19日まで）の相談室の延べ対応件数の推移です。表中のカッコ内は、専門相談合計における内訳を示してあります。全体として件数は減少しました。子ども相談においては、家庭訪問数の減少がありました。また、女性相談においては、適切な機関紹介による事例の整理を行いました。

3. 地域支援活動の実践

1）ボランティアフォローアップ講座

地域の子育て力向上を目的として、子育て支援ボランティア養成講座を開講しています。これまでの受講修了者は90名となり、30名は子育て支援ボランティアとして活躍しています。今年度は、当センターが立地する旭地区の地域子育て支援委員会で活躍されている松浦順子さんをお招きし、「地域ではぐくむ子育て支援」の題目で子育て支援の必要性を感じた経緯や地域活動の実践報告をしていただきました。さらに、活動の共有化を図るため、ボランティア活動ノートの作成や交流会を開催しました。

ボランティアフォローアップ講座

ボランティア交流会

2）地域訪問活動

センターにとって地域をどう捉えるかは、大変重要なテーマです。センターの利用者の利用傾向を詳細に分析し、順化、旭、宝永、木田、和田地区の5つを対象としました。今年度は、旭、宝永地区の公民館に出向き、そこに在籍する地域子育て委員会の構成員と情報交換会を8回行いました。地域の子育て支援の実態や課題が明らかになり、今後の地域訪問活動を展開するうえで重要なものとなりました。

3）公立保育所出張相談

児童虐待対応の社会的取り組みとして、市町に要保護児童対策地域協議会が設置されています。事例の発見、援助方針等を検討し、関係機関に役割を依頼しています。特に保育所で担うのは、「見守り」援助ですが、それを担う保育士の精神的疲労感についてはあまり取り上げられていませんでした。今年度から、不適切な養育状況下にある子どもに対応する保育士への相談・助言等を行うことを目的に、保育所出張相談を行いました。福井市子ども福祉課、子育て支援室、統括園長と協議を行い、まずは、福井市の公立保育園で実施しました。

ボランティア活動報告

仁愛女子短期大学

パソコンボランティアサークル

はしもと（2013年度サークル長）

パソコンボランティアサークル（以下、パソボラ）では、毎月第３土曜の午後に鯖江市社会福祉協議会（以下、社協）が主催する「障がい者のためのパソコン相談会」にボランティアスタッフとして参加しています。今日は、今年度から活動を始めた１回生数名に感想を聴いてみましょう。

かどや（2014年度サークル長）

私はKさんの相談に2回対応しました。Kさんは右手に障がいがあり、パソコン（以下、PC）の準備や後始末にサポートが必要です。しかしPC操作の面では私たちよりもとても優れていると思いました。たまに、わからないところがあると私たちに質問し、自分でできるようになるまで何回も挑戦するという、とても一生懸命な方です。最初はPCの知識も少ない私に教えることができるのか不安でしたが、このボランティア活動では相談し合いながら楽しく活動できるので不安もなくなりました。私たちのサポートを必要とする人のために私自身も努力したいと思います。

すぎもと

私は、パソボラを通して、人と話す能力などが少しずつ身に付いていると感じています。最初は、相手が障がい者の方ということもあって、不安でいっぱいでした。しかし、PCの操作を教えることで、自然に会話をすることができ、最近では会話をすることよりも操作を教えるほうが難しく思うときもあります。どうすれば相手にわかりやすく伝わるかを考え、行動することで、PCの操作の確認ももちろん、思いやりの心が養われていると感じます。

おくで

仁短内でのサークル活動としては、視覚障がい者が用いる画面読み上げソフト（VDM）や音声メール&ニュースソフト（VoicePopper）の使用方法、キーボードのみを使った（マウスを使わない）画面操作について学びました。そして実際に社協へ行って、視覚障がい者の方にPCの操作方法を教えました。しかし、私よりも障がい者の方のほうがPCを上手に使いこなしており、私のほうが勉強になりました。また、シニアのボランティアスタッフの方に障がい者の方との接し方について教わりました。あまり力になることができなかったかなと思いましたが、最後に相談者から「ありがとう楽しかった」と言っていただいた時はとても嬉しかったです。頑張って今よりも上手にPCを使えるようになりたいと思いました。

ボランティアサークル

幼児教育学科2回生　小中凪

ボランティアサークルでは、定期的な図書館での活動に加え、児童館や保育所、幼稚園、地域のイベントなどで、子どもを対象としたレクリエーションや絵本の読みきかせなどの活動をしています。

定期的な図書館での活動は、2ヶ所におよそ月1回ずつの頻度で、レクリエーションや制作活動、読みきかせなどを実施しています。主な参加者は、子どもは未就園児から小学生まで幅広く、保護者の方も一緒に参加してくださることも多いです。はじめは、子どもたちの目線に立って内

容を考えたり、準備を進めたりすることが難しく、保護者の方からアドバイスをいただいたり、予想外のことが起こったりして、戸惑うことの方が多かったです。そのため、子どもたちが満足できないまま活動を終えることも多く、子どもたちが笑顔を見せてくれないこともありました。しかし、毎回必ず反省会を行い、授業や実習で学んだことなどを取り入れながら、次の活動につなげる努力をしていきました。さまざまな反省と工夫を繰り返しながら、なんとか徐々に、子どもたちや保護者の方の前で活動をすることにも慣れていきました。そして、少しずつ子どもたちからも「楽しかったよ」という言葉や笑顔をもらった時は、とてもうれしく、また次もがんばろうと思います。

絵本や手遊びは、子どもたちの年齢などを考えながら選びますが、毎回とても悩みます。参加は自由なので、どの年齢の子どもが来ても対応できるようにしなければならないことも難しいです。また、どのような絵本を選ぶかだけでなく、導入の仕方や読み方についても、子どもたちにわかりやすく伝え、楽しんでもらうためにはどうすればよいのかを考えています。まだうまくいかないことも多いのですが、手遊びや絵本、紙芝居のレパートリーも徐々に増え、話を広げたり、つなげたりすることもできるようになりました。活動後には、参加してくださった保護者の方や子どもたちと話す機会があることも、貴重な経験になっています。

栄養研究サークル

森田地区文化祭

栄養研究サークルでは、10月20日の森田地区文化祭に手作りパウンドケーキの店を出店しました。パウンドケーキは、プレーン・抹茶マーブル・ココアマーブルの三種類を販売しました。今年は、一本売り1本450円に加え、バラ売り1個100円も販売し、小学生の子供たちにも買えるように配慮しました。

バラ売りにしたことで、価格が安く、食べたい分だけ買えることもあり、昨年よりも若い年代のお客様からも買っていただくことができました。特にココアマーブルは、どの年代にも人気があり、あっという間に完売してしまいました。午前の販売では、本売りで買ってくださるお客様が多かったため、バラ売りより早く完売してしまいました。

あいにくの雨天にも関わらず、たくさんお買い上げいただいたお客様にとても感謝でいっぱいです。実際にパウンドケーキを生産から販売まで手掛けることはとても大変なことですが、お客様の生の声が聴けることが励みとなりました。また、地域の森田地区民の方々とのコミュニケーションを図ることができ、とても良い体験となりました。来年も、部員で心をこめてパウンドケーキの製造・販売をし、森田地区文化祭を盛り上げていきたいと思っています。

森田夢市

11月10日の森田夢市では、栄養研究サークル恒例の手作りパウンドケーキの店を出店しました。今回は、野菜を使ったパウンドケーキを中心に、一本売りのみの販売をしました。野菜は、ほうれん草・かぼちゃ・さつま芋の三種類、その他にプレーン・抹茶マーブル・ココアマーブルを販売しました。又、ホワイトスノークッキーの販売も行いました。野菜のパウンドケーキ作りは手間がかかり、とても大変でしたが、野菜独特の苦味を感じさせない美味しいパウンドケーキを作ることが出来ました。

今年は、特にかぼちゃのパウンドケーキがあっという間に完売し、昨年に比べてほうれん草の完売も早かったです。森田地区文化祭でのパウンドケーキの購入が叶わな

かったことから、野菜以外のパウンドケーキを購入してくださるお客様も多かったです。森田地区文化祭と同様、ココアマーブルの売れ行きがよく、完売が早かったので、来年はもう少し数量を増やしてみようと思います。
毎年、野菜のパウンドケーキを楽しみにしてくださる方が多く、たくさんの喜びの声を頂き、とても嬉しかったです。お客様から様々なご要望も頂いているのですが、今年は例年通りのものしか出来なかったので、来年度は人参など、他の野菜を使ったパウンドケーキ作りも挑戦していきたいと思います。

ユネスコサークル

伊藤　かおり

実施日（活動日時）：平成25年10月19日（土）

私たちの活動は主に募金活動や献血活動の手伝い（献血を受ける方の記録係）があります。それは、仁愛女子短期大学の学生、先生や職員、他大学の学生、地域の方々など、たくさんの人が集まる大学祭（仁短祭）の中で行われます。

今回は日赤（日本赤十字社）の都合で献血補助活動は行われませんでしたので、主に募金活動について述べたいと思います。大学祭当日、午前は学科・クラスごとに分けて出している模擬店の仕事を行っていたので、募金活動はほとんどできませんでしたが、午後は時間が空いていたので午後の1時間30分ほどを使って、校内や出店されているあたりを集中的に回って、活動を行いました。「募金活動を行っています、ご協力お願いします。」と大きな声をだして、お金が少しでも集まるように努力しましたが、残念ながら今回はあまりお金は集められませんでした。

その原因は3つあると思います。一つ目は活動時間が短かったこと。二つ目はその場でぶっつけ本番の形で行っていた活動なので、事前に多くの人に知ってもらえなかったこと。やはり、みんなによく知ってもらう必要があったと思いました。三つ目は3人で固まって行っていたので、それぞれで分散して活動を行っていれば、もっと効率的になったのだろうと思います。

今回の活動を通しての反省は、そもそも募金活動というのは多くの人に理解してもらい、時間をかけてじっくりやることが必要だったのだろうと思います。その点で今回はあまりうまくいかなかったのでしょう。やはりお金を集めるというのは大変なことだと改めて実感しました。

今回の活動は、このような形で終わってしまいましたが、このことが来年のユネスコクラブの活動に活かされると良いと思うので、後輩に伝えておきたいと思っています。

折り紙研究会

福井市消費者祭り

田中　遥奈

実施日（活動日時）：平成25年12月1日（日）

消費者祭りでは、来てくださったお年寄りや子どもたちと一緒に折り紙遊びを楽しみました。折り紙は小さい子どもから大人の方まで楽しめるように、さまざまなものを練習して準備しました。

まだ折り紙をやりはじめたばかりだった小さい子には教えるのが難しく、最初は上手く教えることができませんでした。しかし、「お山とお山をくっつけてね。」など簡単な言葉をつかうと、スムーズに折り進めていくことができました。自分が保育者になってからも、子どもたちの目線に立って言葉に気を付けて教えていきたいと思います。折り鶴など少し難しいものは、お年寄りの方が喜んでくださり、「お正月につかうね。」と言葉をかけていただいてとても嬉しかったです。ボランティアを通して、さまざまな方とコミュニケーションをとることができ、自分にとって良い経験になりました。これからもさまざまなボランティア活動に参加していきたいです。

ボランティアでは、保育者にとって大切な福祉の精神や、人との温かい関わりを感じることができました。ボランティア活動で学んだことをこれからに活かしていきたいです。

福井市河合公民館　「仁短のお姉さんと遊ぼう」

川代　夏未

実施日（活動日時）：平成25年12月8日（日）

私たちは、「仁短のお姉さんと遊ぼう」という活動を行いました。内容は、まずフルートとピアノの2重奏をし、その後“クリスマスツリーや飾り作り”、“ドレミパイプで遊ぼう”、“お手玉で遊ぼう”といったブースにわかれて子どもたちと遊びました。最後にブラックパネルシアターを行い、参加した子どもたちにお菓子をプレゼントしました。

この活動を通して、子どもたちが楽しむことができるような企画を考える大変さや、活動中も子どもたちの様子を見ながら進めていく大切さを学びました。

反省点は、いくつかのブースをつくって、それぞれのところに好きなように子どもが行くことができるようにしていましたが、ツリー作りに人気が集中し偏ってしまったことや、参加した子どもの年齢幅が広かったので、一人一人に合わせた声かけを上手にできなかったことです。しかし、自分たちが頑張って用意したお手玉などで楽しそうに遊ぶ姿や、ツリーが完成した時のうれしそうな笑顔などを見ることができて、頑張ってボランティアをしてよかったと思いました。今回学んだことを保育者としての保育に活かしていけると良いなと思います。

幼児教育学科

エンゼルタウン 2013

高溝　梨紗

実施日（活動日時）：平成25年9月22日（日）・23日（月）

「エンゼルタウン2013」は、幼児や小学生を対象とした職業体験ができるイベントでした。このイベントに来た子どもたちからは、「自分が将来なりたい職業について、はやく学んでみたい」という思いが伝わってきました。体験内容には、消防士や銀行員、ドーナツ屋さん、花屋さんなどたくさんあり、「どれを体験しようかな、選べないな」と悩んでいる光景がよく見られました。

私は、商店街の職場体験を子どもたちに指導するボランティアをしました。はじめ子どもたちは「いらっしゃいませ」と大きな声を出すことを、恥ずかしがってためらっていましたが、いろいろと接客などをしているうちに慣れてきたようです。職業体験中盤には、大きな声で楽しそうに「いらっしゃいませ！」と言っていました。商品を買ってくれた人たちから、「ありがとう。お仕事頑張ってね！」と言われて、照れくさそうにしている姿も見られ、微笑ましいなと思いました。

このボランティアを通して、子どもと接するなかで、保育実習の時とはまた違った子どもたちの姿や表情、親子の関わりを見ることができました。ここで体験したことを実習等で応用していけるよう努力していきたいです。

子育て応援団　「すこやかふくい 2013」

竹内　翔子

実施日（活動日時）：平成25年11月23日（土）・24日（日）

私は、「すこやかふくい2013」のステージ司会をしました。忘れ物の案内や、緊急の連絡にもその場で対応する難しさを痛感し、臨機応変に行動することが大切だということを学びました。また、初めて会うスタッフの方々と活動するということで、人間関係を築く力や人と接する力がついたと思います。

反省点は、前日から台本をいただいていたにも関わらず、まったく頭に入らないまま進めてしまい、ただ読むだけの進行になってしまったことです。もっと文章を頭の中に入れ、人に伝える話し方をする必要があったと思いました。子どもたちをひきつける話し方ができたり、大人の方にもしっかりと各グループの魅力を伝えられるような話し方ができたら、もっと良い司会になったかと思いました。

しかし、暗い雰囲気でステージに上がることのないようにするため、出番以外の時間にスタッフの人と明るく話をしたり、準備や片付けなど率先して動いたりするようにと心がけ、明るく笑顔で話すことができました。

平成25年度 地域活動実践センター活動報告

管理栄養士国家試験対策リカレント講座

	開講日	教科 1限18:30~19:30・2限19:40~20:40	講　　師（敬称略）	参加人数
第1回	7月 6日(土)	第1回 全国統一模擬試験	牧野・吉田	16
第2回	9月19日(木)	食べ物と健康-1（調理）	谷　洋子	17
第3回	9月26日(木)	食べ物と健康-2（食品）	加藤　隆夫	17
第4回	10月 3日(木)	食べ物と健康-3（食品衛生）	加藤　隆夫	14
第5回	10月 5日(土)	第2回 全国統一模擬試験	牧野・吉田	26
第6回	10月10日(木)	臨床栄養学（栄養）	吉田　弘子	16
第7回	10月16日(水)	基礎栄養学	岩田　章子	12
第8回	10月24日(木)	生化学	谷　政八	16
第9回	10月31日(木)	社会･環境と健康-1	出口　洋二	14
第10回	11月 7日(木)	社会･環境と健康-2	出口　洋二	15
第11回	11月21日(木)	応用栄養学	牧野　みゆき	13
第12回	11月23日(土)	第3回 全国統一模擬試験	牧野・吉田	24
第13回	11月28日(木)	栄養教育論	牧野　みゆき	11
第14回	12月 5日(木)	人体の機能と栄養（解剖生理学）	齋藤　正一	13
第15回	12月12日(木)	人体の構造と疾患（病理）	齋藤　正一	15
第16回	12月19日(木)	臨床栄養学（診断）	齋藤　正一	8
第17回	1月 9日(木)	公衆栄養学	牧野　みゆき	13
第18回	1月16日(木)	給食経営管理論-1	桑野　洋子	12
第19回	1月23日(木)	給食経営管理論-2	桑野　洋子	12
第20回	1月25日(土)	第4回 全国統一模擬試験	牧野・吉田	31

講師派遣

日　時	講師氏名	テーマ	依頼団体
5月25日	出村　友寛	子どもの運動、健康	あさかぜ保育園
5月29日	前田　敬子	絵本で育つ子どもの心	聖三一幼稚園
7月 8日	前田　博子	ストールを染めよう!	福井県民生活協同組合 もえぎの会
12月14日	岸松　静代	親と子のデコレーションケーキづくり	仁愛短大附属幼稚園

学生の社会的活動(ボランティア等)の報告

参加した活動の状況					参加した学生の状況	
活動名	活動日時	活動場所	主催団体	活動の対象	活動サークル・学科の名称	参加人数
地域ボランティア	5月8日	森田地区全域	仁愛女子短期大学	森田地区住民	2回生全員	245
森田地区文化祭	10月19日・20日	森田小学校	森田地区文化委員会 森田公民館	森田地区住民	仁短祭実行委員会 栄養研究サークル	21
季節の壁面飾り作り	毎週火曜日 12:30～12:55	仁愛女子短大 A401	公益財団法人 がんの子どもを守る会	入院している子ども	折り紙研究会	18
福井市消費者まつり	12月1日	フェニックスプラザ	福井市消費者まつり実行委員会	一般	折り紙研究会	11
仁短のお姉さんと一緒に遊ぼう!	12月8日	福井市河合公民館	福井市河合公民館	子どもとその保護者	折り紙研究会	8
使用済切手・書き損じ葉書回収活動 (学内数カ所にボックス設置)	1年間	仁愛女子短大	仁愛女子短大ユネスコクラブ	仁愛女子短大学生	ユネスコクラブ	5
大学祭活動 (募金、書き損じ葉書回収活動)	10月19日(土) 9:00～16:00	仁愛女子短大	仁愛女子短大ユネスコクラブ	仁愛女子短大学生と (教)職員、来学者	ユネスコクラブ	10
障がい者のためのパソコン相談会	第三土曜日	鯖江市社会福祉協議会 鳥羽事業所	鯖江市社会福祉協議会	身体障がい者の方と その家族	パソコンボランティア サークル	25
仁愛のお姉さんと遊ぼう会	第一土曜日	坂井市立三国図書館	坂井市立三国図書館	幼児～小学生	ボランティアサークル	22
お話会	5月18日 1月28日	坂井市立坂井図書館	坂井市立坂井図書館	幼児	ボランティアサークル	4
夏休みの活動	8月26～28日	上志比児童館	上志比児童館	小学生	ボランティアサークル	7
子どもの作品展「小さなアーチスト展」	2月1日	越前市文化センター	越前市公立幼稚園後援会連合会	幼児、小学生	ボランティアサークル	3
訪問演奏	6月18日	ツクイ福井森田デイサービスセンター	ツクイ福井森田デイサービスセンター	入所者	音楽学科専攻科	3
たなばたまつり	7月5日	敦賀市中郷保育園	敦賀市中郷保育園	保育園児	音楽学科専攻科	3
訪問演奏	7月19日	福井大学附属特別支援学校	福井大学附属特別支援学校	生徒・教職員	音楽学科専攻科	3
ソロとアンサンブルの夕べ	7月23日 2月18日	仁愛女子短大・ 福井新聞社風の森ホール	仁愛女子短期大学専攻科 音楽専攻	一般	音楽学科専攻科	6
つるが「鉄道と港」フェスティバル	8月2日	敦賀市金ケ崎緑地周辺	「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会	一般住民	音楽学科専攻科	3
安川病院 ロビーコンサート	8月3日 2月1日	安川病院	安川病院	来院者・病院関係者	音楽学科専攻科	6
第9回あわら市民音楽会 夢きらめきコンサート	10月19日	あわら市文化会館	あわら市民音楽会実行委員会	あわら市住民	音楽学科専攻科	3
親子のための虹色コンサート	12月21日	福井新聞社風の森ホール	親子のための虹色コンサート実行委員会	一般親子	音楽学科専攻科	3
坪江地区老人クラブ連合会総会	3月7日	あわら市老人福祉センター「市姫荘」	あわら市坪江地区老人クラブ連合会	老人クラブ会員	音楽学科専攻科	3
こどものまちエンゼルタウン2013	9月21日・ 22日・23日	エンゼルランドふくい	福井県児童科学館	幼児・小学生	幼児教育学科・ 生活情報専攻科	33
子育て応援団 すこやかふくい2013	11月23日・24日	福井県産業会館	子育て応援団実行委員会	子どもとその保護者	幼児教育学科	102
幼児教育保育ボランティア	1年間	各幼稚園・保育園・施設	各幼稚園・保育園・施設	乳幼児・小学生・障害児(者)	幼児教育学科	84
もりた夢駅～「夏物語」2013	7月7日(日)	JR森田駅	森田地区文化委員会	小学生・一般住民	生活環境専攻科	58
森田まつり2013　エコキャンドル	7月27日(土)	九頭竜川河川敷	福井北商工会青年部 森田公民館	一般住民	生活環境専攻科	15
もりた夢市	11月10日(日)	森田小学校	森田地区活性化委員会	一般住民	生活環境専攻科 栄養研究サークル	13
ふくい夢アート	10月6日(日)～ 10月27日(日)	福井駅前周辺	福井市 ふくい夢アート実行委員会	一般住民	生活環境専攻科	360
サマーチャレンジ教室	8月17日～20日	福井県立三方青年の家	福井県教育委員会	小学生	生活環境専攻科	16
福井サマーキャンプ	7月25日～8月7日	殿下地区	殿下被災者受入委員会	小学生	生活環境専攻科	12

※当センターでの把握のみ　※人数は延べ人数です。

平成25年度 教員免許状更新講習

仁愛女子短期大学が、平成25年度に実施した教員免許状更新講習「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項（選択）の概要は次の通りである。

講習①	講 習 名	子どもの音楽的感性を育む実践指導
	認定番号	平25−35162−50002号
	講　　師	大久保　功治（本学幼児教育学科教授）・木下　由香（本学幼児教育学科准教授） 河野　久寿（本学幼児教育学科准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもたちの発達に応じた音楽表現活動の意義を理解し、自然な音楽活動を通して、伸びやかな音楽的感性を育成する実践的な指導について学ぶ。具体的には、①楽器を使った創造的音楽活動の実際、②和声的なアプローチから教材としての楽曲の理解を深めた音楽表現、③器楽合奏編曲の基礎と器楽合奏の指導法について学ぶ。
	講習会場	仁愛女子短期大学　A106及びE401演奏ホール
	日　　程	平成25年8月6日（火）9:20〜16:40
	受講者数	28人

講習②	講 習 名	保育内容（造形・言語表現）
	認定番号	平25−35162−50003号
	講　　師	重村　幹夫（本学幼児教育学科教授） 前田　敬子（本学幼児教育学科准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもの表現力をはぐくむため、言語表現分野では、タオル人形作りを通して子どもが保育者の話に耳を傾けるアプローチの仕方を考え、絵本作りを通して子どもが言葉の楽しさに気づき、人に分かるように話そうとする態度を培うための方法を知る。造形表現分野では、色数を制限した水彩画を描くなどの実践を通して、水彩絵の具の混色やパレット、筆の使い方について確かな技能を習得する。
	講習会場	仁愛女子短期大学　B108教室及びB401教室
	日　　程	平成25年8月8日（木）9:10〜16:40
	受講者数	11人

講習③	講 習 名	幼児・初等教育におけるICT活用
	認定番号	平25−35162−50004号
	講　　師	乙部　貴幸（本学幼児教育学科准教授） 田中　洋一（本学生活科学学科准教授）
	講習の目標・ねらい	幼稚園・小学校の現場で活用すべきICTに関して、情報を収集、分析、整理・保管、表現する各プロセスにおいて必要な能力と、運用する上での情報倫理を身に付ける。また、アンケート調査の基礎理論およびPCによる実際の集計方法を理解する。以上により、実践の場でのICTによるコミュニケーション能力・問題解決能力が高まることを目的とする。
	講習会場	仁愛女子短期大学　C108教室
	日　　程	平成25年8月20日（火）9:00〜16:30
	受講者数	19人

おわりに

地域活動実践センター長　三　和　　優

『SOCIUS』について

本誌名「SOCIUS」は禿正宣学長が名づけました。「SOCIUS」とは、ラテン語で「仲間」「友」を意味するそうです。この言葉から「societas」いう「親交、友愛、絆」を意味する言葉ができ、社会を意味する society という英語が生まれたと言われています。また、SOCIUS という言葉は「分かち合っている・結びつけられた」という意味を持つ形容詞でもあります。当センターが地域と短大を結び合わせることによって、新しい仲間が増え、つながり合い、愛や絆が感じられるような「社会づくり」を目指したいという願いが込められているということです。

当センターは生活科学学科・幼児教育学科・音楽学科に設置されていたそれぞれの研究センターを平成 18 年 4 月に「地域活動実践センター」に統合して設立されました。その目的は、仁愛女子短期大学の建学の精神である「仁愛兼済」を実践するため、本学が保有する知識等の資源を地域社会に提供し、地域社会の発展と文化の向上に資することです。

平成 25 年度の主な活動として、①公開講座・講習会の開催、②地域の教育活動を支援するための教職員派遣、③本学と森田地区まちづくり協議会との連携、④教職員・学生のボランティア活動の支援、⑤ AOSSA の「子育て支援室・相談室」の協力・支援、⑥教員免許状更新講習の開催、⑦機関誌の発行等の事業に取り組みました。

これからさらに本センターが地域に貢献するためには、本学が有している教育資源をどのように活用するかについて、その方策を考えなければならないと思います。そのためにも今後とも、関係者の皆様のご協力とご理解をよろしくお願いいたします。